



J

**OLYMPUS**

**OM-4Ti**

**INSTRUCTIONS**

■ 使用説明書

**BLACK**

オリンパスOM-4Ti(BLACK)をお買いあげいただき、ありがとうございます。

この製品は、ボディ主要部にきわめて軽くアルミの6倍の強度を持つ金属チタンを採用。  
マルチスポット測光、さらに世界に先駆けてストロボ全速同調機構を搭載した一眼レフカメラです。  
プロレベルの露出テクニックや日中シンクロなどの高度なストロボ撮影をより簡単な操作で実現。

誰でも、創造の領域を大きく広げることができます。

ご使用前には、OM-4チタンブラックを目の前に置いて、この使用説明書をよくお読みのうえ、  
正しくお使いください。

末永くご愛用いただきますよう、お願いいたします。

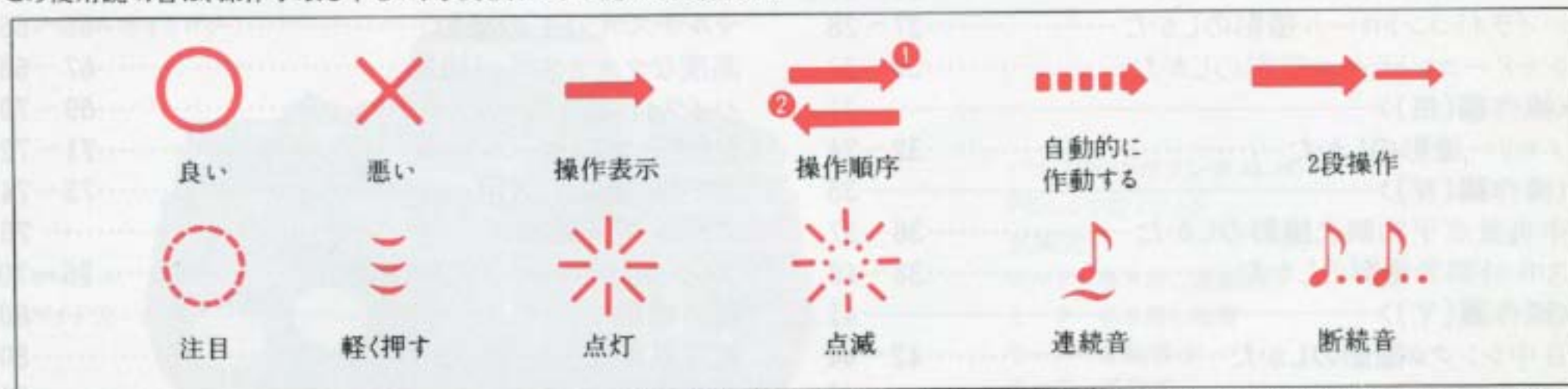
# 目次

〈撮影の準備〉	4	露出補正のしかた	47
視度調節のしかた	5～6	バルブ撮影のしかた	48
レンズを取り付けます	7～8	電池が切れたときの写し方	49
電池を入れます	9	ファインダー表示の照明のしかた	50
電池をチェックします	10	音の消しかた	51
フィルムを入れます	11～13	フォーカシングスクリーンの交換のしかた	52
フィルム感度をあわせませす	14	裏ぶたの交換のしかた	53
〈操作編(Ⅰ)〉	15	グリップの取り付け方	54
TTLダイレクト測光撮影のしかた	16～18	〈よりよい写真を撮るために〉	56
フィルムを巻き戻します	19～20	クリエイティブな露光と高速シンクロの魅力	57～58
〈操作編(Ⅱ)〉	21	TTLダイレクト測光	59
スポット測光撮影のしかた	22～23	スポット測光	60～61
スポット測光のクリアーのしかた	24	AEロック	62
マルチスポット測光撮影のしかた	25～26	1点スポットでの撮影	63～64
ハイライトコントロール撮影のしかた	27～28	マルチスポットでの撮影	65～66
シャドーコントロール撮影のしかた	29～30	高度なマルチスポット撮影	67～68
〈操作編(Ⅲ)〉	31	ハイライトコントロール	69～70
メモリー撮影のしかた	32～34	シャドーコントロール	71～72
〈操作編(Ⅳ)〉	35	メモリー機能の活用	73～74
中央重点平均測光撮影のしかた	36～37	ファインダー表示	75
スポット測光撮影のしかた	38～40	フルシンクロフラッシュF280の活用	76～79
〈操作編(Ⅴ)〉	41	露出補正	80
日中シンクロ撮影のしかた	42～44	被写界深度	80
〈操作編(Ⅵ)〉	45	深度目盛	81
セルフタイマーの使い方	46	被写界深度を目で確かめたいとき	82

シャッタースピード	83
バルブ撮影	84
多重露光	85
赤外線写真撮影	85
〈OMシステムの使い方〉	86
ストロボ撮影	87～92
モータードライブ撮影	93～96
データの写し込み方	97
マクロ撮影	98～102

フォーカシングスクリーンの選び方	103～104
フィルターの選び方	105～106
〈末永くご愛用いただくために〉	108
保管と使用上の注意	109～110
こんなときはこうしましょう	111～115
保証書、アフターサービスについて	117
カメラクラブのご案内	118
各部の名称	119～121
主な仕様	122

この使用説明書は、操作手順を中心に、写真とイラストで説明してあります。



ご注意: オリンパスOM-4チタンブラックのシステムユニットは、ボディ機能を高めるため、専用の〈OMシステム〉を設計、生産管理しています。当社製品以外の交換レンズ、ストロボまたはその他の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、保証いたしかねます。

# OM-4 Ti

---

## BLACK

---

撮影の準備

# 視度調節をします。

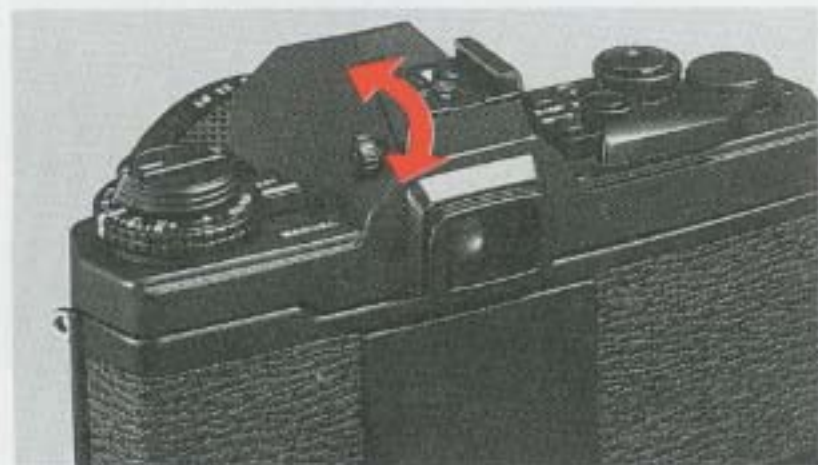
OM-4チタンブラックは撮影者の視力に合わせて、視度を調節できます。



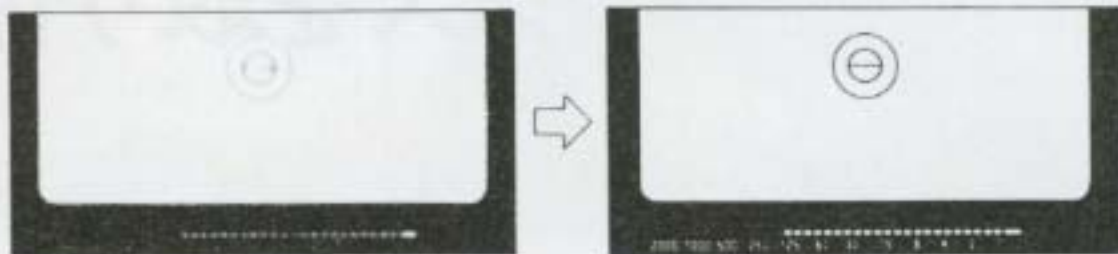
1 ボディキャップを外します。



2 ノブを引き出します。



**3** マット面がはっきり見えるまで回して調節  
します。



**4** 押し込んでロックします。

# レンズを取り付けます。



1 リアレンズキャップを外します。



2 赤指標を合わせて、止まるまで回します。





**3** フロントレンズキャップの両側をつまんで外します。



レンズを取り外すとき：ボタンを押しながら外れるまで回します。

# 電池を入れます。

種類の違う電池、あるいは新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。  
カメラを長時間使用しないときは電池を取り出して保存してください。



1 カメラ下側の電池フタをコイン等で開けます。



2 電池の向きを正しく合わせて入れ、電池フタを閉めます。



電池SR44又はLR44を2個

# 電池をチェックします。

新しい電池と交換したとき・気温が非常に低いとき・長時間カメラを放置しておいたとき、必ずチェックしてください。

1 レバーを **CHECK** にします。



音と光で電池のあることを知らせます。電池が消耗してくると音と光が断続的になり、完全になくなると音と光が出なくなりますので、電池を交換してください。

2 確認したら、レバーを戻します。

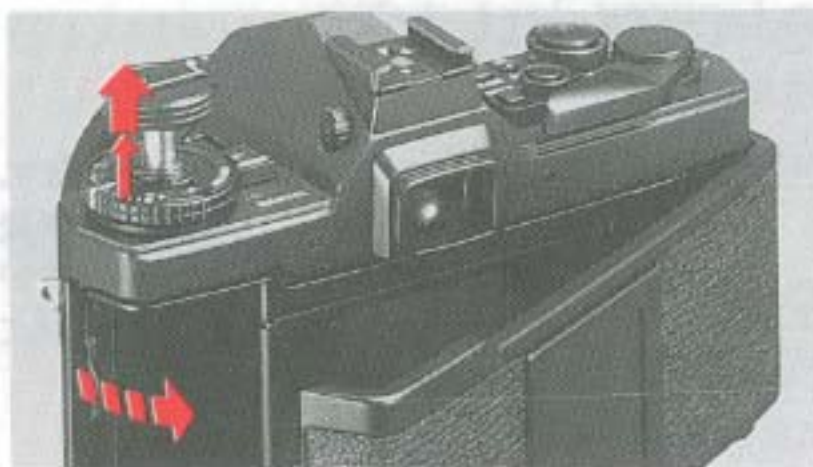


チェック時の音と光は、30秒間で自動的にカットされます。このとき、撮影するとオート露出でシャッターが切れます。

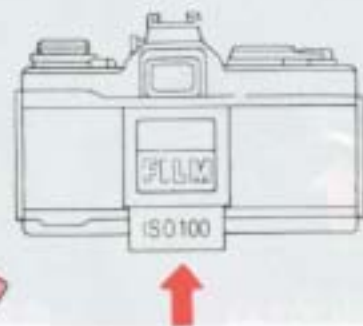
# フィルムを入れます。

① 通気が多いところでかびを生えさせずに保管するには、

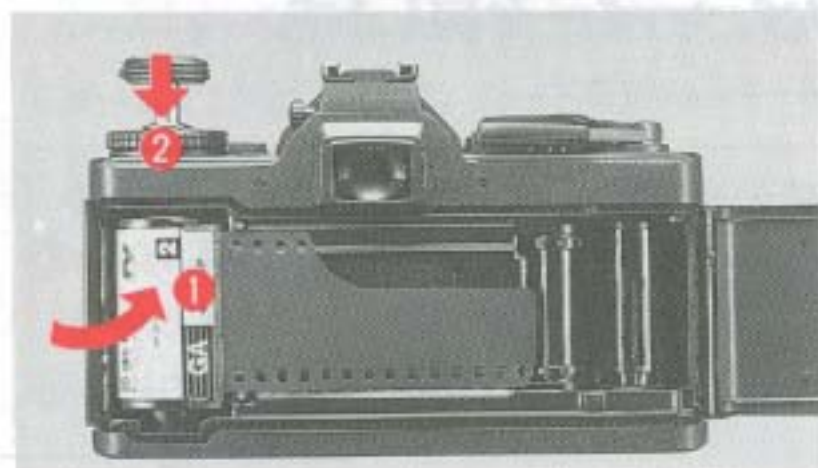
② 撮影中にファインダー内の表示が消えたが、



1 巻き戻しノブを引上げ、裏フタを開けます。



フィルムケースの蓋をメモホルダーに差し込んでおくとう便利です。

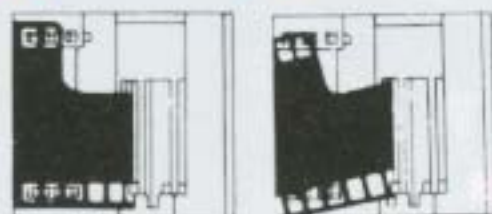
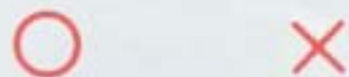
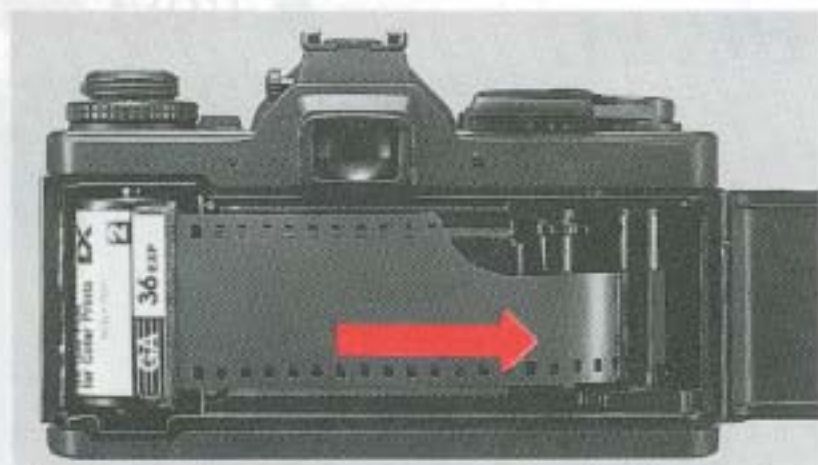


2 フィルムを入れ、巻き戻しノブを押し下げます。

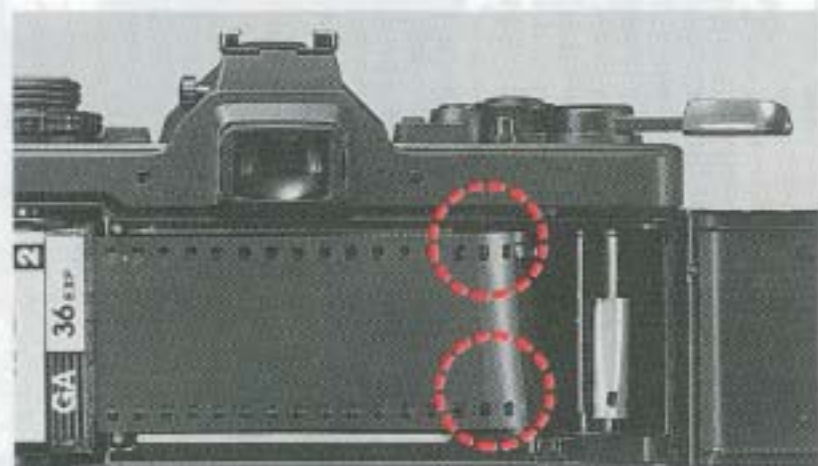


フィルムの入れ換えは、直射日光を避け、日陰で行います。

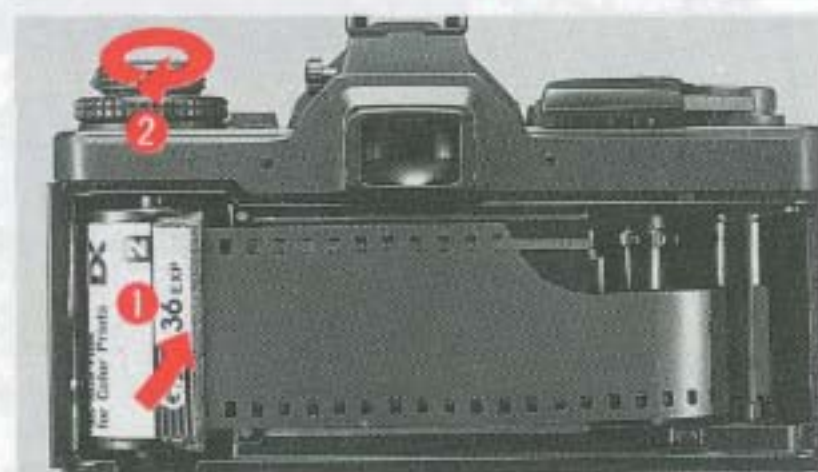
**3** フィルムの先端を溝の下端にしっかり差し込みます。



**4** フィルムを巻き上げながら、上下の穴が歯車にかみあっていることを確認します。



**5** 巻き戻しノブを右に止まるまで回し、フィルムのたるみを取ります。



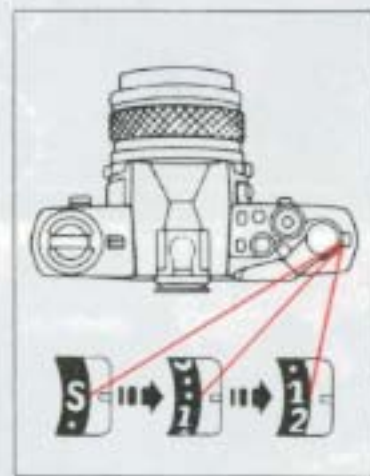
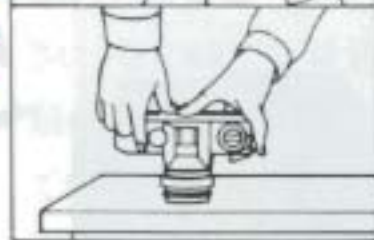


## 6 裏ブタを閉じます。



## 7 カラ写しをして数字を1にします。 (正常に巻き上げられていると、巻き戻しノブが回ります)

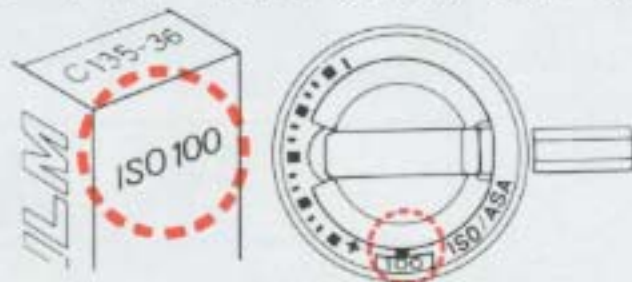
明るい方に向けてカラ写しをします。



# フィルム感度をあわせます。



1 ダイヤルを持ち上げながら回します。



使用できるフィルム感度 (8) (16) (32) (80) (160) (320) (640) (1250) (2500)  
6 12 25 40 64 100 200 400 800 1600 3200  
(10) (20) (50) (125) (250) (500) (1000) (2000)

2 ずれた指標線を合わせます。

露出補正ダイヤルを回しても所定のISO数値まで回らないときは、いったん途中の数値でセットし、再び操作することを繰り返します。



# OM-4

---

## BLACK

---

### 操作編 I (オート撮影)

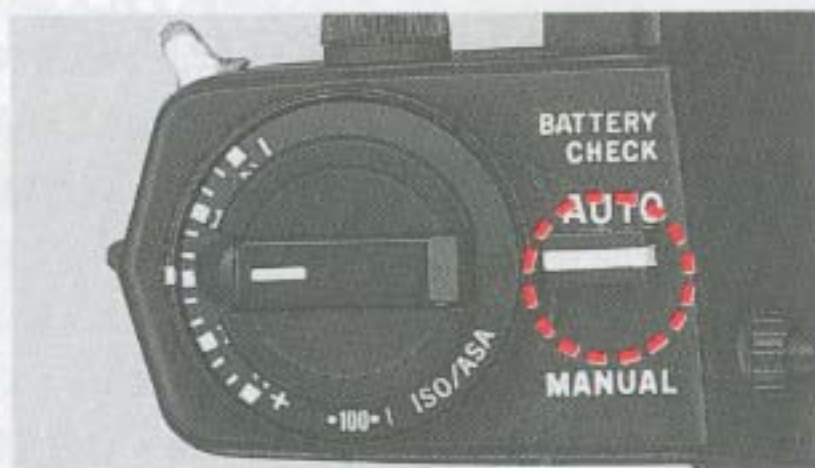
OM-4チタンブラックは、幅広い撮影に対応できるTTLダイレクト測光(中央重点平均測光)による絞り優先オートを基本にしています。順光のときやコントラストがそれほど強くない場合など、一般的な撮影はほとんどこのモードで行えます。



# TTLダイレクト測光撮影のしかた

絞り優先オートですから、バックをボカすなど、被写界深度を利用した撮影ができます。

(P. 59参照)



1 **AUTO** にセットします。



2 任意の絞りを選びます。

絞り値の(例)

ISO 100			
絞り値 (F)	16	8	4
天候			

被写界深度で絞りを選ぶ場合はP.80～82参照。



3 シャッターレリーズボタンを軽く押し、ファインダー表示を出します。



バーの先端がシャッタースピードを示します。



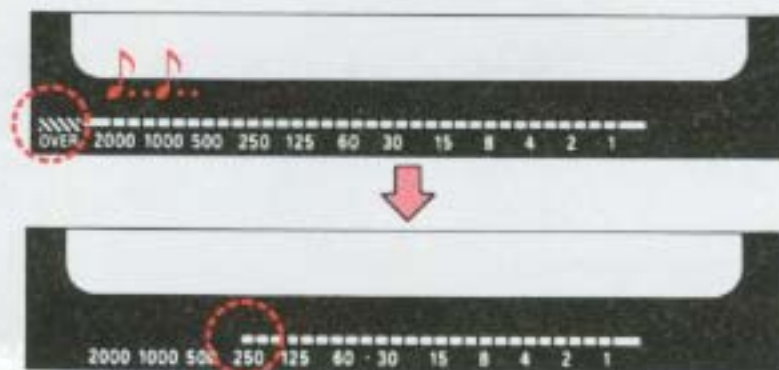
4 ファインダーをのぞいてピントを合わせます。



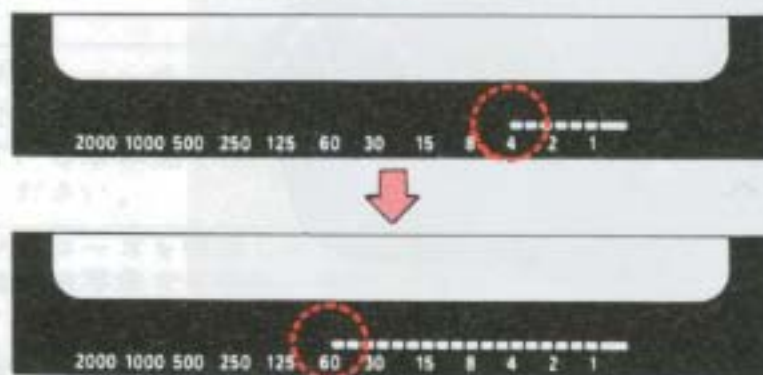
5 構図を決め、シャッターレリーズボタンを押します。



露出オーバー警告が出たときは絞り込みます。



シャッタースピードが遅いときは手ぶれを防ぐために絞りを開きます。

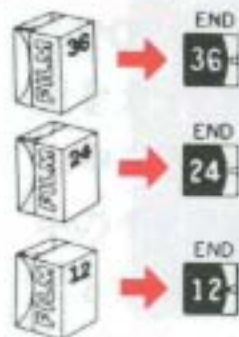


ファインダー表示は、120秒間継続します。

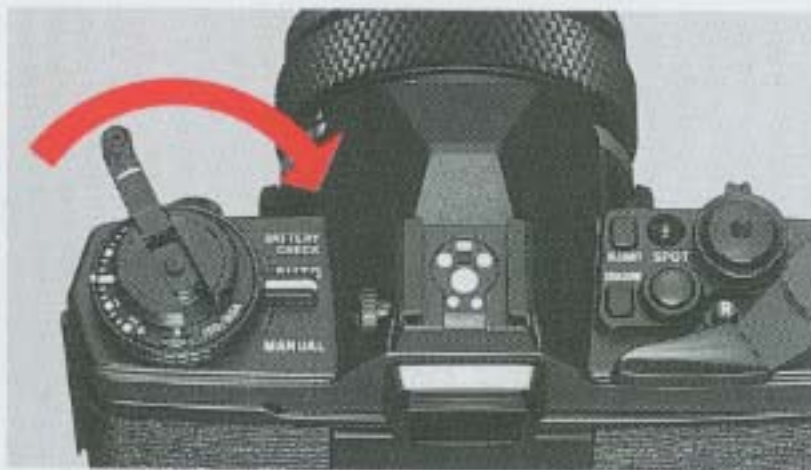
# フィルムを巻き戻します。



1 フィルムが終ったことを確認します。



2 巻き戻しボタンを押します。



**3** 巻き戻しクランクを起こし、軽くなるまで巻き戻します。



**4** 巻き戻しノブを引き上げ、裏フタを開いてフィルムを取り出します。

# OM-4 Ti

---

## BLACK

---

### 操作編 II (オート撮影)

OM-4チタンブラックは、撮影者の意図通りに露出をコントロールするスポット測光ができます。逆光のときやコントラストが強い場合などの撮影はもちろん、よりクリエイティブな撮影がオートで行えます。

# スポット測光撮影のしかた

(P. 60~64参照)



1 画面の中央部に測光する部分をもってきます。

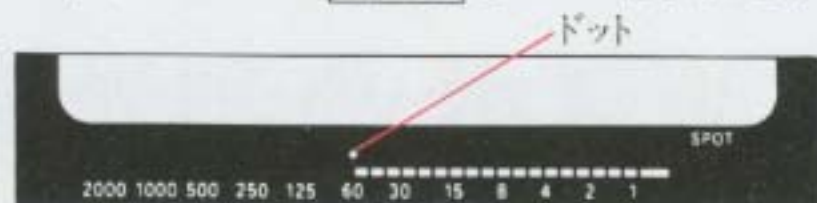


スポット測光範囲  
(スポットサークル)



2 スポットボタンを押し測光します。

ファインダーに「SPOT」と◆が表示されます。



カメラを動かしたとき入力された測光値(ドット)とは別のドットが画面中央部の測光値を表示します。



3 シャッターリリースボタンを押します。



4 バックの明るさに左右されることなく、測光した部分を基準に適正露出で写せます。

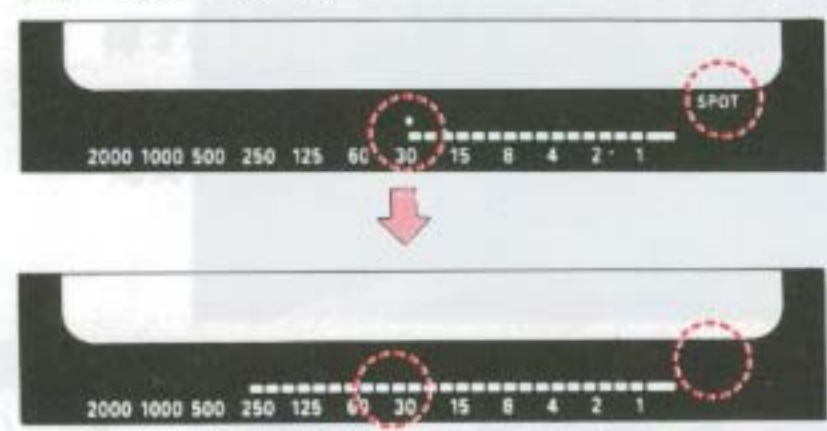
スポット測光は、シャッターリリース後もしくは120秒経過後、自動的に解除されTTLダイレクト測光に戻ります。



# スポット測光のクリアーのしかた



1 レバーを操作します。TTLダイレクト測光に戻ります。



# マルチスポット測光撮影のしかた

スポット測光は、最高8カ所まで可能です。

(P. 65~68参照)



逆光状態の被写体です。

1 顔でスポット測光します。  
(1点目)

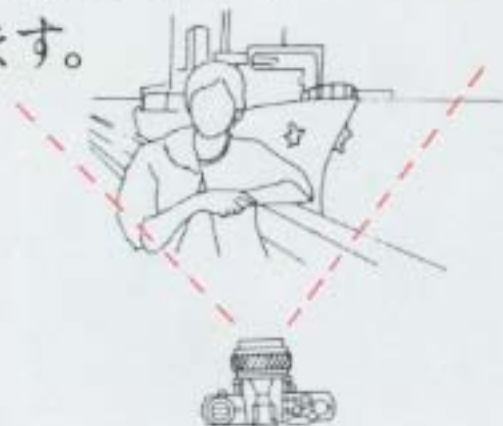




2 バックの船でスポット測光します。  
(2点目)



3 構図を決めてシャッターレリーズボタンを  
押します。



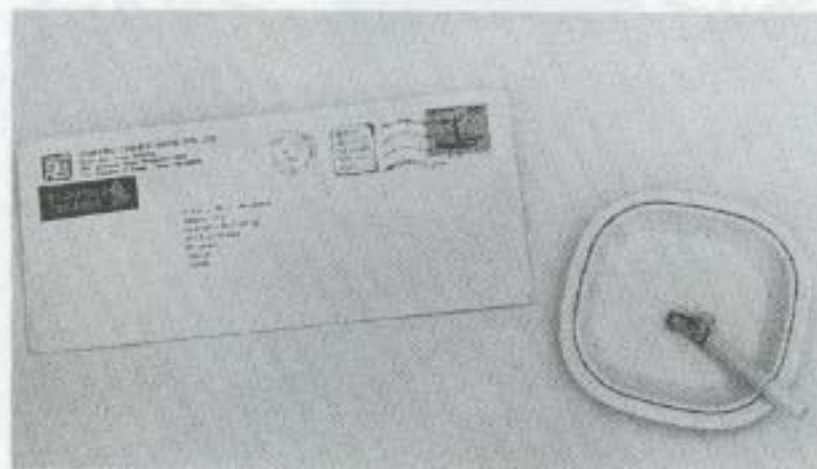
人物もバックも適正露出で写せます。



測光した値をキャンセルするときは、クリアー  
レバーを操作します。

# ハイライトコントロール撮影のしかた

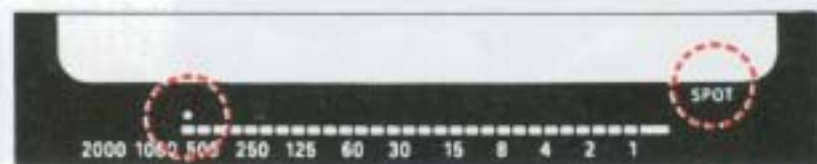
(P.69~70参照)



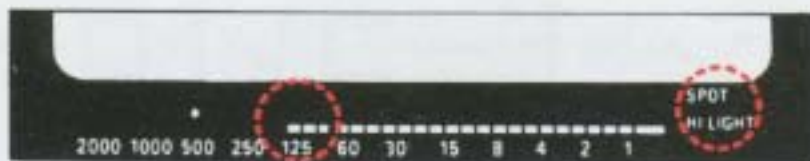
通常の撮影では全体に明るいとき、白いものはグレイ調に写ってしまいます。



1 もっとも白い部分をスポット測光します。



## 2 ハイライトボタンを押します。



露出値は、オーバー側へ2段自動的に補正されます。

## 3 シャッターリリースボタンを押します。

白を白として写せます。

ハイライトボタンをもう一度押すと、ハイライトコントロールが解除されます。測光した値をキャンセルするときは、クリアレバーを操作します。

# シャドーコントロール撮影のしかた

黒いものを黒く写したいときに使用します。

(P.71~72参照)



通常の撮影では全体に暗いとき、黒いものはグレイ調に写ってしまいます。



1 もっとも黒い部分をスポット測光します。





2 シャドーボタンを押します。



露出値は、アンダー側に2 $\frac{2}{3}$ 段補正されます。



3 シャッターレリーズボタンを押します。



黒を黒として写せます。

シャドーボタンをもう一度押すと、シャドーコントロールが解除されます。測光した値をキャンセルするときは、クリアレバーを操作します。

# OM-4 Ti

---

## BLACK

---

### 操作編 III (オート撮影)

同じ被写体を写しても、背景などが変わると、オート撮影ではその露出値に大きな差が生じます。OM-4チタンブラックには、これを解消する露出メモリー機構が組み込まれています。TTLダイレクト測光、スポット測光のどちらでも使え、しかも絞りやシャッタースピードも自由に調節できます。



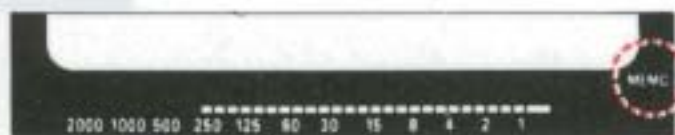
# メモリー撮影のしかた

同じ人物を背景や衣裳を変えて何枚も撮影するときに便利です。

(P. 73~74参照)



- 1 レバーを操作してメモリーを準備します。  
ファインダー内に**MEMO**が表示され、メモリーシグナルが2回点滅を繰り返します。

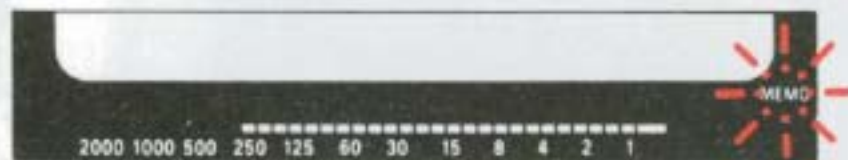


- 2 構図を決めます。

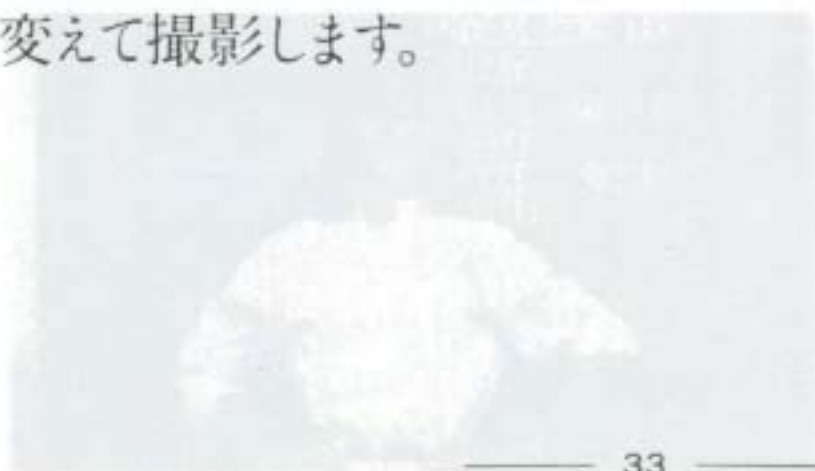
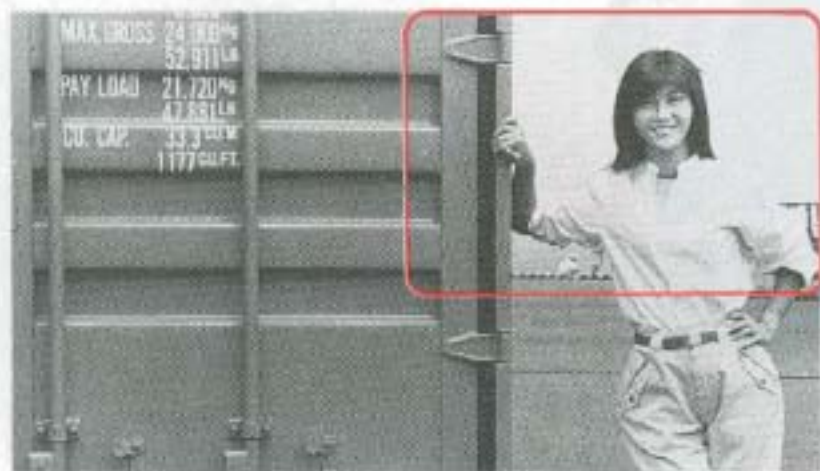
### 3 シャッターレリーズボタンを押します。 シャッターレリーズ後、露出値がメモリー されます。

メモリーはシャッターレリーズ後、60分間継続され  
ます。

ファインダー内の**MEMO**が点滅に変わり、  
メモリーシグナルが1回点滅になります。



### 4 構図を変えて撮影します。

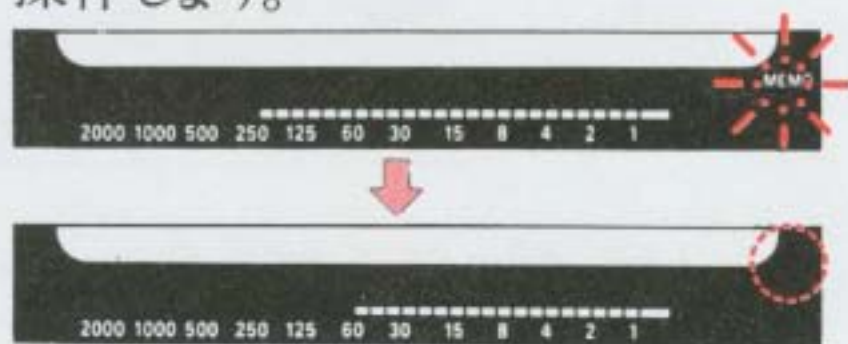




5 構図が変わっても、メモリーされた値で露出されます。



6 メモリーの解除は、クリアーレバーを操作します。



メモリーは、下記の操作でも解除されます。

1. レンズの着脱
2. モードレバー切り換え
3. シャッターリリース後60分経過で自動解除

# OM-4 Ti

---

## BLACK

---

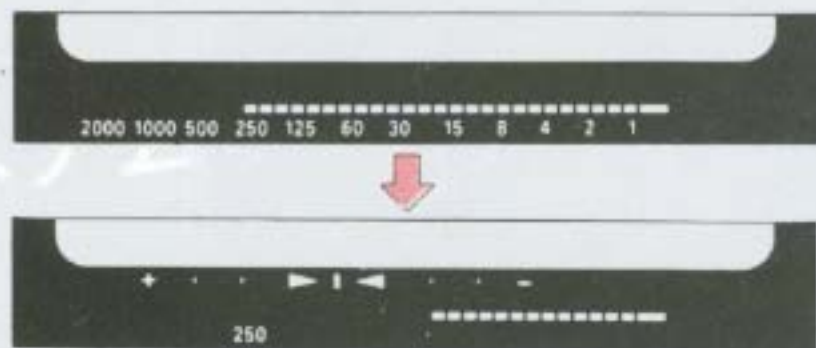
### 操作編 IV (マニュアル撮影)

OM-4チタンブラックは、マニュアルで中央重点平均測光とスポット測光の撮影が行えます。撮影目的に合わせて、絞りもシャッタースピードも自由に選ぶことで個性ある写真が創れます。

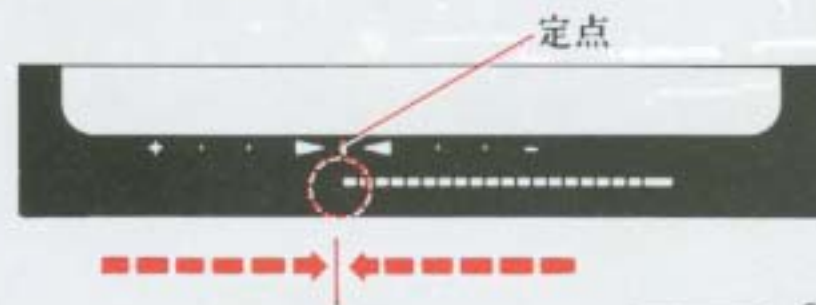
# 中央重点平均測光撮影のしかた



1 マニュアルモードに切り換えます。

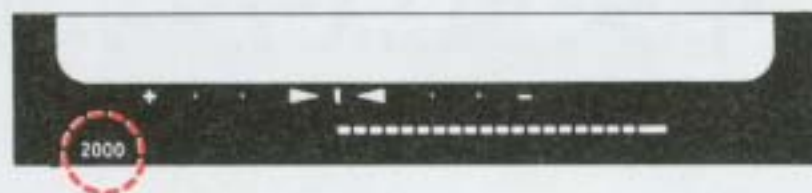


2 シャッターダイヤルと絞り環でバーの先端を定点に合わせます。





3 設定したシャッタースピードがファインダー内に表示されます。



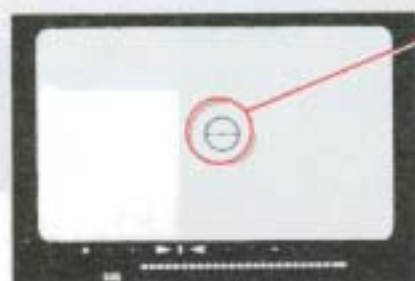
4 シャッターリリースボタンを押します。

# スポット測光撮影のしかた

(P. 60~64参照)



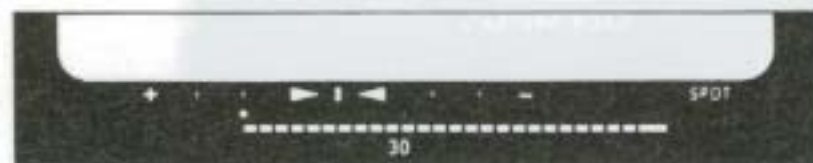
1 画面の中央部に測光する部分をもってきます。



スポット測光範囲  
(スポットサークル)

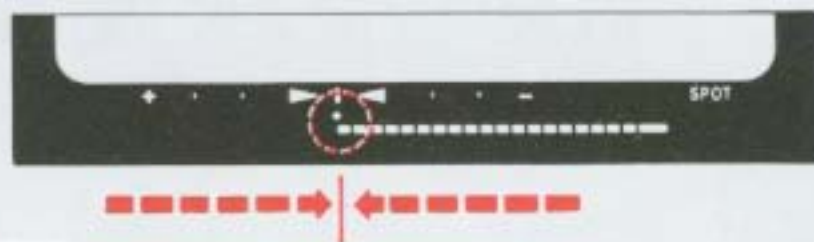


2 スポットボタンを押して測光します。





3 シャッターダイヤルと絞り環でバーを定点に合わせます。



4 設定したシャッタースピードがファインダー内に表示されます。



5 シャッターリリースボタンを押します。





6 バックの明るさに左右されることなく、測光した部分を基準に適正露出で写せます。

この他、マルチスポット・ハイライトコントロール・シャドーコントロールのいずれの撮影も、ファインダー内のバーを定点に合わせることで行えます。

# OM-4 Ti

---

## BLACK

---

### 操作編 V (ストロボ撮影)

OM-4チタンブラック+フルシンクロフラッシュF280での撮影

OM-4チタンブラックは、世界初のフルシンクロフラッシュF280を完全駆使。これまでかなりの熟練を要した日中シンクロ撮影においても、プロなみの写真をより簡単に写すことができます。

# 日中シンクロ撮影のしかた

ここでは、スーパーFP発光による撮影を基本として説明しています。  
閃光発光で撮影するときは、F280の使用説明書を参照してください。

(P. 76~79参照)

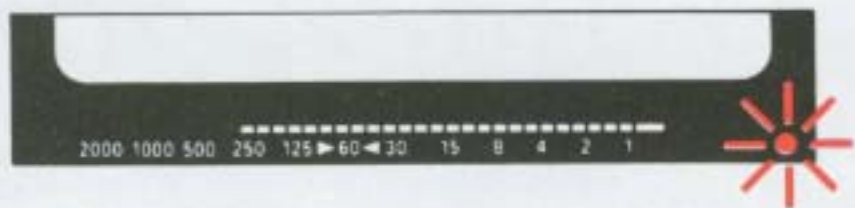


**1** F280をシューに差し込み、ロックノブで固定します。



**2** F280の電源をONにします。

### 3 充電を確認します。



### 4 F280のモードを**SUPER FP**にします。



### 5 **AUTO**にセットします。





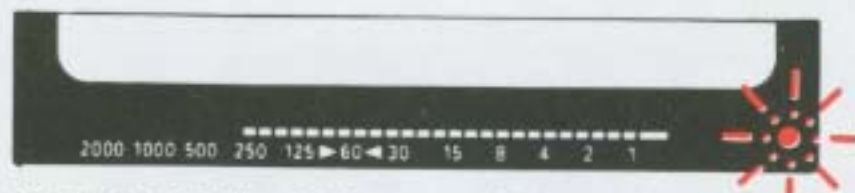
6 任意のシャッタースピードを選びます。  
( $\frac{1}{60}$ 秒より低速になる場合は、マニュアル撮影をしてください。詳しくはF 280の使用説明書をご参照ください。)



7 シャッターレリーズボタンを押します。



8 発光の確認をします。



( $\frac{1}{60}$ 秒より低速で発光させた場合は、消灯します)

# OM-4 Ti

---

## BLACK

---

### 操作編 VI

その他の機構の使い方。

# セルフタイマーの使い方



**1** セルフタイマーレバーをセットします。



**2** シャッターレリーズボタンを押します。  
(12秒後にシャッターが切れます。)  
撮影後はレバーを元に戻します。

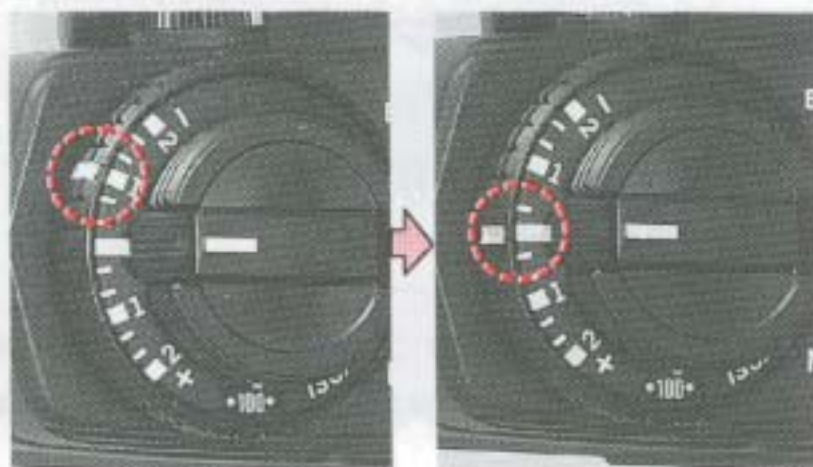
作動中にセルフタイマーレバーを戻すとただちにシャッターは切れます。

# 露出補正のしかた

(P. 80参照)



1 露出補正ダイヤルを回します。ファインダー内に「+」が点滅します。



2 使用後は元に戻します。

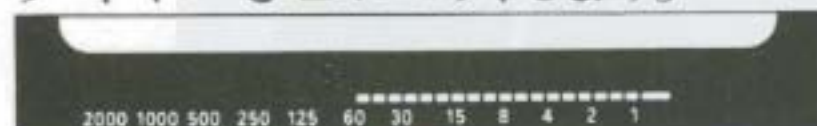


# バルブ撮影のしかた

(P. 84参照)



- 1 バルブロックボタンを押しながらシャッターダイヤルをBにセットします。



- 2 シャッターレリーズボタンを押している間シャッターは開いています。



# 電池が切れたときの写し方

電池がない場合でも緊急に撮影する必要がある場合は、メカニカルシャッターにより $\frac{1}{60}$ 秒で写せます。



**1** バルブロックボタンを押しながらシャッターダイヤルを60(赤色)にセットします。



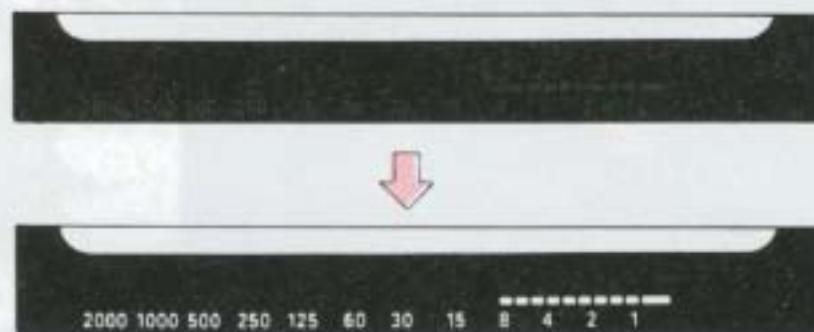
**2** シャッターリリースボタンを押します。メカニカルシャッターが作動し $\frac{1}{60}$ 秒でシャッターが切れます。

モータードライブ・ワインダー・ストロボは使用できません。

# ファインダー表示の照明のしかた



1 照明ボタンを押します。



# 音の消しかた



1 レバーをセットします。

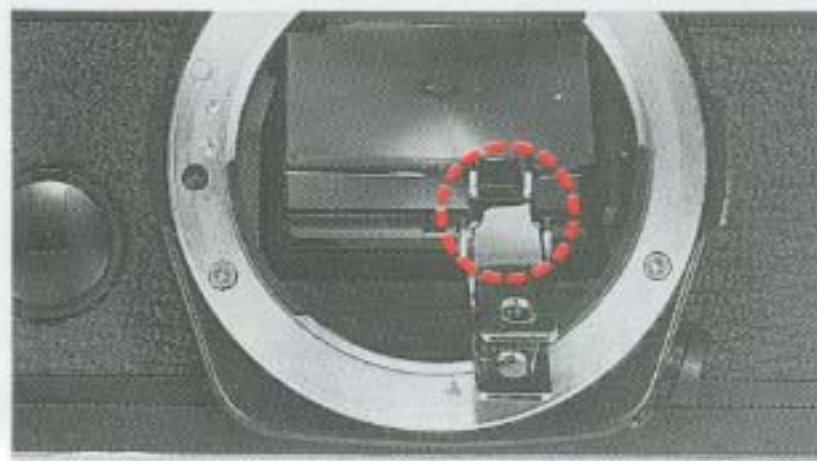
スポットの入力、ハイライト/シャドーコントロールの入力、メモリー/クリアーレバーの操作、バッテリーチェック、レンズの着脱時の電子音が全て消えます。

# フォーカシングスクリーンの交換のしかた

撮影状況に応じたスクリーンを14種類用意しています。



- 1 マウント内上方にあるレバーを手前に引くとフォーカシングスクリーンが下がります。



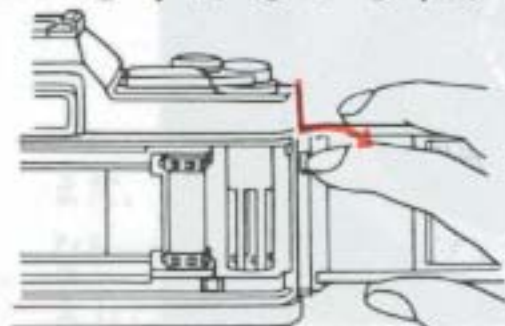
- 2 ピンセット(別売フォーカシングスクリーンに付属)を使って新しいフォーカシングスクリーンと交換します。枠をカチリと音がするまで上方に押し上げます。

# 裏ぶたの交換のしかた

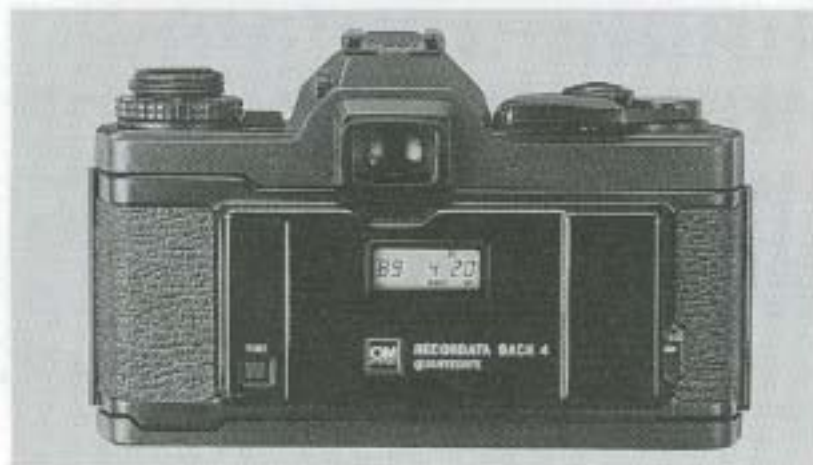
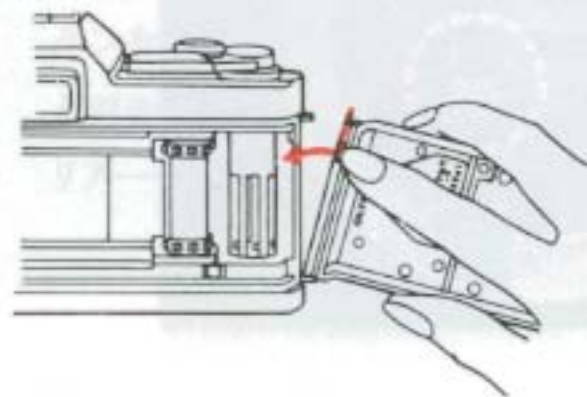
レコーデータバックや250フィルムバック1との交換が可能です。

(P. 97参照)

- 1** 巻き戻しノブを引上げ裏ぶたを開けます。  
ピンを下げながら取りはずします。



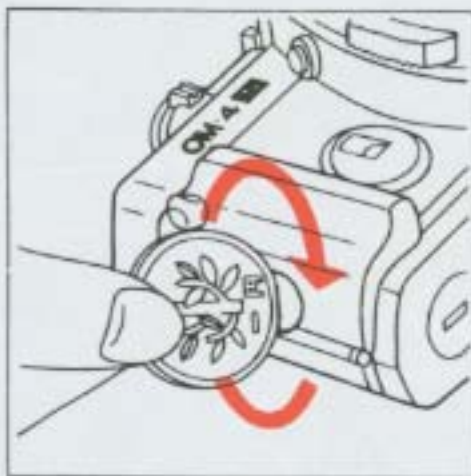
- 2** ピンを下げたまま取付けます。



# グリップの取り付け方



- 1 グリップ(別売カメラグリップ1)を取付けます。



モータードライブ、ワインダーを使用するときは、  
取りはずします。





NONIETTA  
TAVERN  
RESTAURANT

RISTORANTE

DUKES  
JAZZ BAR  
DANCING  
MUSIC  
PLACE  
TO BE ABOUT

DUKES  
JAZZ BAR  
DANCING  
MUSIC  
IS YOUR  
DANCE  
BAR

CONTINUOUS  
DANCING  
Free JAZZ  
OPEN 8PM-10PM

Playa Theatre



# よりよい写真を撮るために

より満足のゆく写真が撮りたいとき。

もっと撮影のテクニックを磨きたいとき。

すべては、そのカメラをよく理解することが基本です。

ここからのページは、さらに高度な撮影に挑むときの一助になれば、

という目的で編集されています。

よくお読みの上、お役立てください。

あなたは今までにカメラのAEまかせて露光した結果、自分のイメージ通りに写ってなくて失望したことはありませんか。

その原因は一般的なカメラのメーターによる測光結果は、たまたまそのカメラ固有の測光パターンによって得られた数値であって、必ずしもその時の被写体コントラストや明部と暗部の面積比や分布を分析的に測定したデータではないからです。

実際の被写体の明暗の範囲(被写体輝度域)はさまざまですが、一般にきわめて幅が広く、屋外の風景などでは10EV以上の場合も少なくありません。それに対してリバーサルカラーフィルムの濃度変化で描写できる被写体輝度域(フィルムの有効露光域)はおよそ5EVくらいが限度です。そこで、カメラマンが自分の表現意図によって主観的に画面のトーンをコントロールしたいと思う時には、被写体全体の明暗のどの部分のトーンを重点的に描写したいのかによって、被写体輝度域のどの部分をフィルムの有効露光域に合致させるかという、ゾーンとゾーンを対応させる考え方が必要になってくるのです。

そうした考え方による露光の方法には3つのパターンがあ

ります。

被写体輝度域の中心点をフィルムの有効露光域に合わせ、中間のトーンを重点に描写し、両端のはみ出した最明部、最暗部は捨てるセンター基準露光。

被写体輝度域の暗部側にフィルムの有効露光域を合致させ、シャドー部のトーンを重点に描写し、はみ出したハイライト部はとばしてしまうシャドー基準露光。

逆に明部寄りに有効露光域を合わせてハイライト部のトーンを重点に描写し、シャドー部はつぶれてもよしとするハイライト基準露光の3つです。

クリエイティブな露光を指向するカメラマンは従来からこうした考え方で、被写体の数カ所をスポットメーターで測り、頭の中で計算して適切な露光を選択するという手間のかかる方法をとっていたものです。

OM-4チタンのマルチスポット測光では、カメラに内蔵されたTTLスポット測光により被写体の重要な部分の1カ所または数カ所を測光しカメラのコンピュータが即座にその平均値を算出して、思い通りの露光をすることができるようになりました。従って誰にでもクリエイティブで高精度の露光ができるようになりました。

こうしたOM-4チタンのマルチスポット測光による適切な露光でも、被写体のコントラストが極端に高く、その輝度域が使用フィルムの有効露光域を大きく越えている場合には、どうしても明部か暗部の描写が犠牲になることは避けられません。

それに対する有効な対策にストロボによってシャド一部分の明るさを補ってやるフィルインフラッシュ（日中シンクロ）の手法があります。

しかし、日中シンクロが多用される晴天の日中は、非常に明るいためストロボの同調速度の低速なフォーカルプレーンシャッター式カメラではレンズを最小絞りまで絞り込まなければ定常光に対して適正露光が得られないという難点があります。

特に夏の海浜や南国などの最も日中シンクロの欲しい時に、明るすぎて最小絞りでもなお露光オーバーでストロボが使えないというケースをよく経験します。

そればかりでなく低速同調では動きの速い被写体の日中シンクロ撮影ではブレる恐れもあります。

そうした事情から、フォーカルプレーンシャッターの同調速度を上げるため、シャッター幕の幕速を速くする研究が進

められてきましたが、現状では1/250秒が限界です。

ところが、今度、発光波形をフラットにして閃光時間を長くすることによってフォーカルプレーンシャッターの全速度に同調させることのできるストロボがオリンパスで開発されOM-4チタンに採用されました。

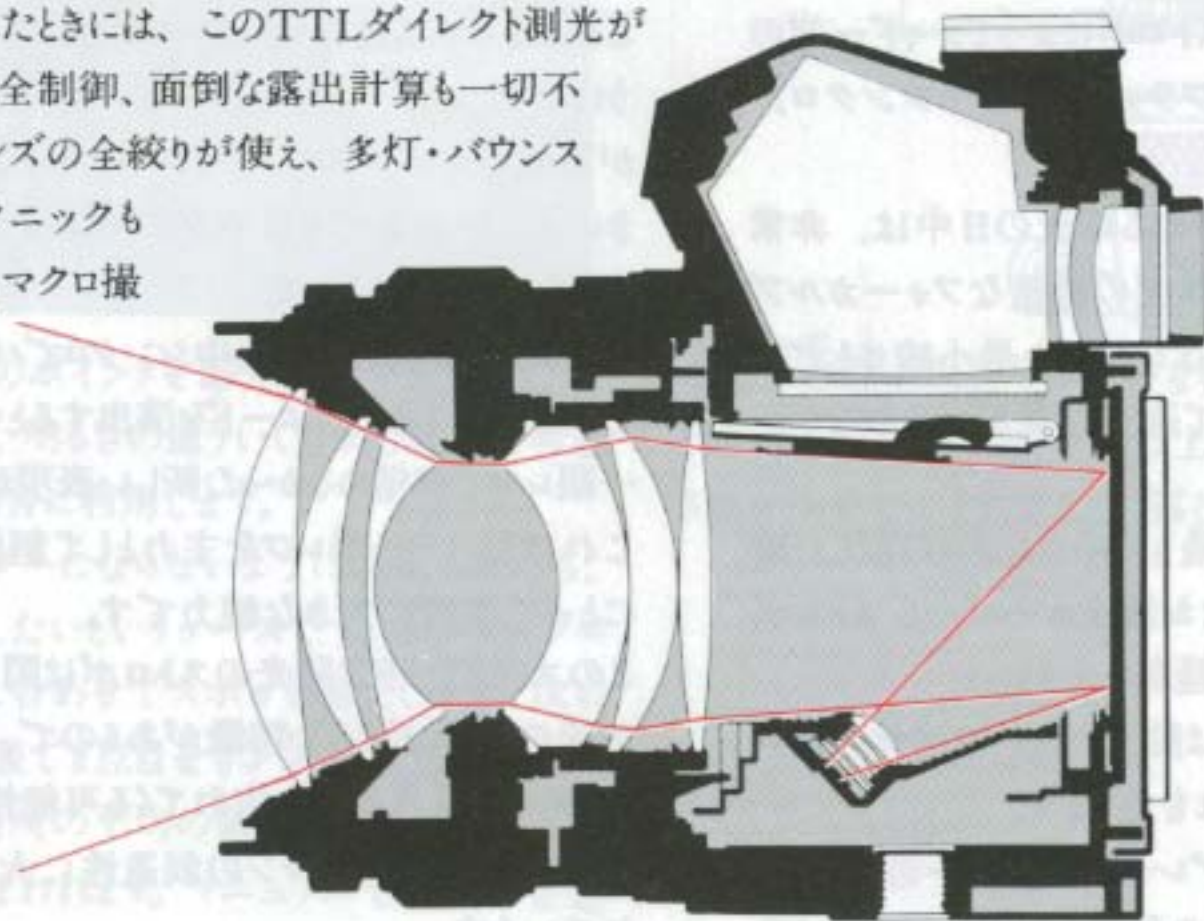
これによって高速シャッターによる日中シンクロができるようになったので、どんなに明るい場所でもストロボの使用が可能ですし、ファッションやスナップ、スポーツなど動きの激しい対象でも日中シンクロによる撮影ができるというメリットが生まれました。

一方、絞りを開けての日中シンクロでバックをソフトにボカして主題を生かし、ムードを演出するという、従来の35ミリ一眼レフでは望めなかった新しい表現が可能になりました。これは35ミリ一眼レフを主力として制作をするカメラマンにとって非常に大きな魅力です。

このスーパーFP発光のストロボは閃光時間が長いという従来のストロボにない特徴があるので、それを利用したまったく新しい写真表現も生れてくる可能性を秘めています。それを掘り起すカメラマンの創造性に大きな期待がかけられています。

測光分布は中央重点平均測光です。フィルムにいま、まさに写りつつある被写体の明るさをダイレクトに測りながら露出を制御。露光中の急激な光の変化にも即応できるオリンパスが世界に先駆けて採用した測光方式です。一般の撮影や機動性を重視した撮影にはたいへん有利です。Tシリーズストロボを使用したときには、このTTLダイレクト測光がストロボ光までも完全制御、面倒な露出計算も一切不要です。また、レンズの全絞りが使え、多灯・バウンスなどの高度なテクニックもフルオートで実現。マクロ撮

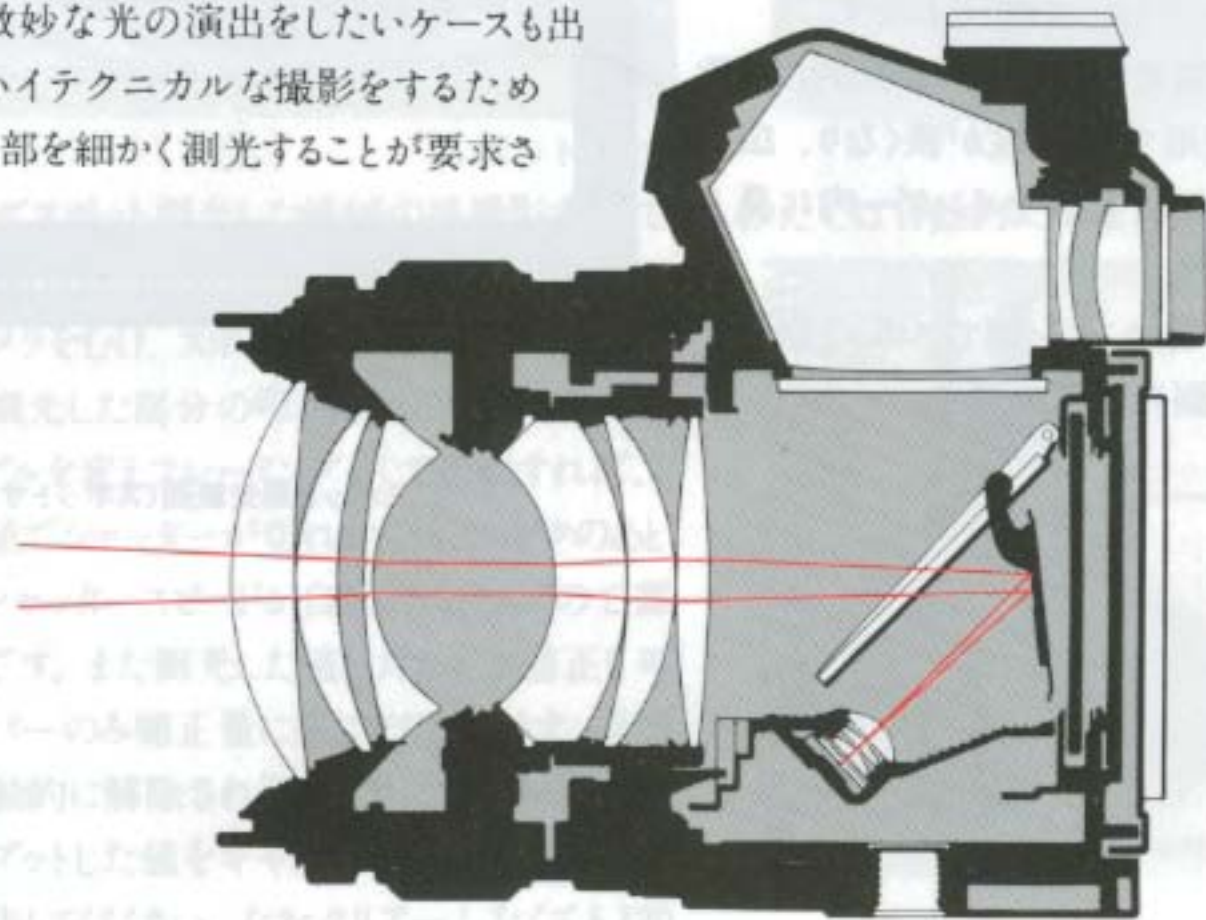
影における難しい露出の問題も、この測光方式が解決しています。さらに、新開発のフルシンクロフラッシュF280を使用したときには、閃光発光時(1/60秒以下)ではTシリーズストロボと同様に光量の制御により、またスーパーFP発光時にはシャッタースピードの制御により、適正露出が決定されます。OM-4チタンは、このように幅広い撮影をこなすTTLダイレクト測光が基本になっています。



点に合わせて撮影します。

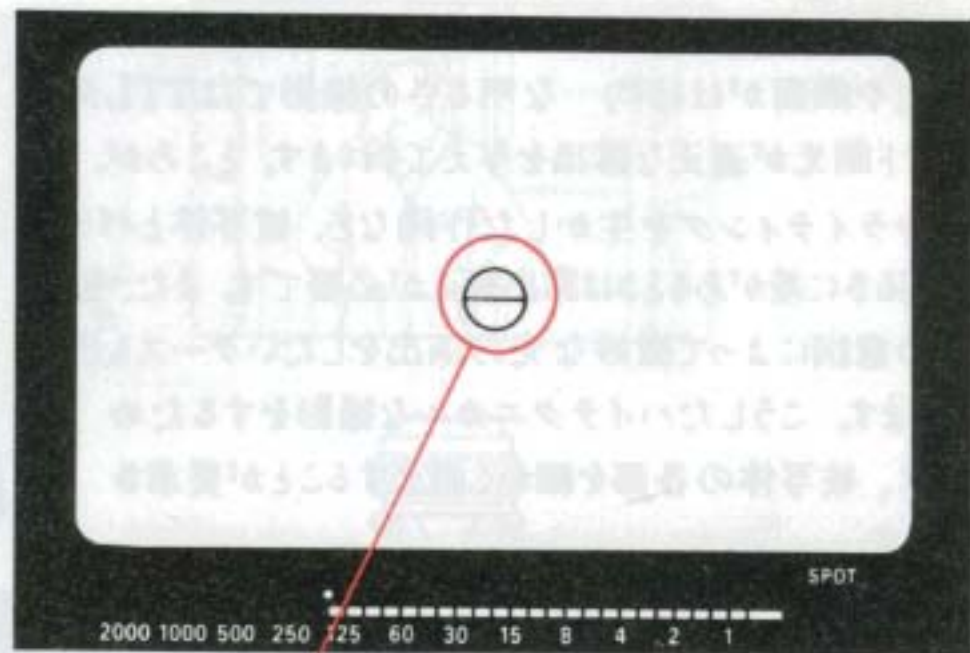
画面の中央部分(全画面の2%)を測る部分測光です。順光や画面がほぼ均一な明るさの撮影ではTTLダイレクト測光が適正な露出を与えてくれます。ところが、逆光やライティングを生かした作画など、被写体とバックの明るさに差があるときは露出補正が必要です。また、撮影者の意図によって微妙な光の演出をしたいケースも出てきます。こうしたハイテクな撮影をするためには、被写体の各部を細かく測光することが要求されます。

OM-4チタンのスポットボタンを押すと、画面中央のほぼマイクロプリズム部に相当する範囲の明るさを測光し、記憶するスポット測光に切り換わります。このスポット測光を活用すれば撮影者の意図通りに露出をコントロールするクリエイティブな作画が可能です。



スポット測光をより確実にするためには、

- ① マイクロプリズム部を、測光したい被写体の中に合わせます。このとき被写体からマイクロプリズム部がはみ出さないように注意してください。被写体からはみ出したマイクロプリズム部に、被写体よりも明るい部分が入っていると、測光値がその明るさに影響されます。
- ② レンズを変えるとスポット測光の受光角が自動的に変化します。望遠レンズを使用すると角度が狭くなり、広角レンズを使用すると広がります。ファインダー内に見える測光範囲は変わりません。
- ③ ズームレンズを使用した場合、テレ側でスポット測光すると、より狭い範囲での測光が可能です。

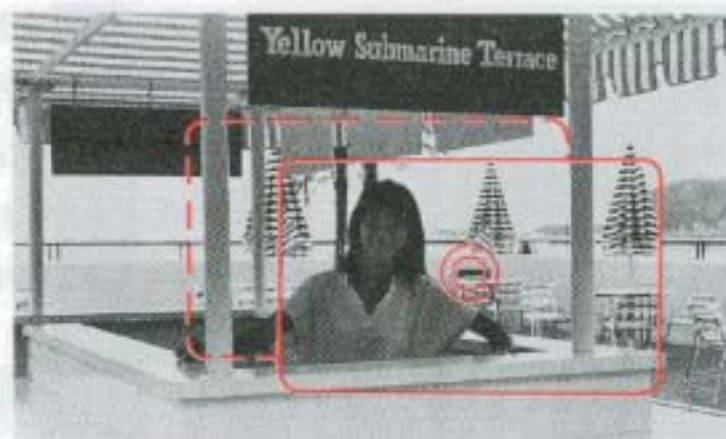


スポット測光範囲(スポットサークル)



スポット測光

オートモードにおいてスポット測光した値をその後撮影するまでの間、カメラが記憶する機構です。撮影後は解除されます。主要被写体にカメラをむけ、スポットボタンを押すとその部分を測光し同時に測光した部分の明るさがAEロックされます。その後カメラアングルを変えフレーミングをして撮影すれば、スポット測光した値でシャッターが切れます。AEロックのあと絞りを変えても、シャッタースピードが自動的に変わるので露出レベルは一定です。また測光した値に対して±補正も可能です。このときパーのみ補正量に応じてシフトします。撮影後AEロックは自動的に解除されTTLダイレクト測光に戻ります。もしインプットした値をキャンセルしたいときはクリアレバーを操作してください。なおクリアしなくても120



フレーミング

秒たてば自動的に解除されます。





画面の中の1点だけを部分測光する方法です。  
スポットボタンを押すだけで撮りたい主題の適正な露出が得られます。

たとえば逆光の人物を平均測光で撮ると、太陽光の影響を受けて肝心の表情は黒くつぶれてしまいます。顔をきれいに写したいときは、顔で1点スポットをとってください。従来のようなカンと経験にたよった操作は一切不要になり、簡単に逆光補正ができます。リリースすると、自動的に中央重点平均測光に戻りますから、無意識のうちにス

ポット測光してしまう心配はありません。  
なおスポットボタンを押すと同時に測光値は記憶されますからフレーミングも自由です。

スポット測光を解除するときはクリアーレバーを操作してください。







画面の中のいくつかのポイントを部分測光する方法です。撮りたい画面の中で、明るさの違ういくつかの部分を考えて露出を決める場合に利用します。

作例は人物がアンダーにならないように注意しながら、洋服の露出も考慮したいというケースです。まずマイクロプリズム部を人物に合わせてスポット測光します。次にカメラを動かして洋服で2点目をインプットします。

これで測光した2箇所の平均の値で露出が決定され、意図通りの撮影が行われます。マニュアルではパーを定点に合わせて撮影します。



なお2点以上入力する場合も要領は同じです。測光は何回でも可能ですが、8回以上入力した場合は、最新の8点を演算し、それをもとに露出値を決めます。

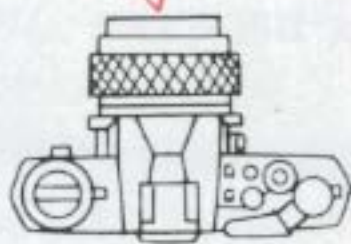


## 高度なマルチスポット測光撮影



マルチスポット測光には、よりクリエイティブな活用方法があります。

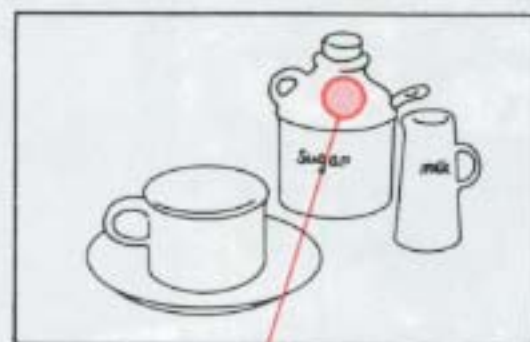
光の演出テクニックとしてバックの明るさも考慮しながら、さらに、人物側に露光の基準をもっていきたいときは、顔で2回、バックで1回というようなスポットのとり方をします。このとき測った3点の平均値で露出されるので、人物の露出を重視した撮影ができます。いままでのカンと経験にたよる露出補正と違い、ファインダー内で測光したポイントとその値を確認しながら、撮影者のイメージに沿った露出が簡単に得られ、オートで撮影できます。



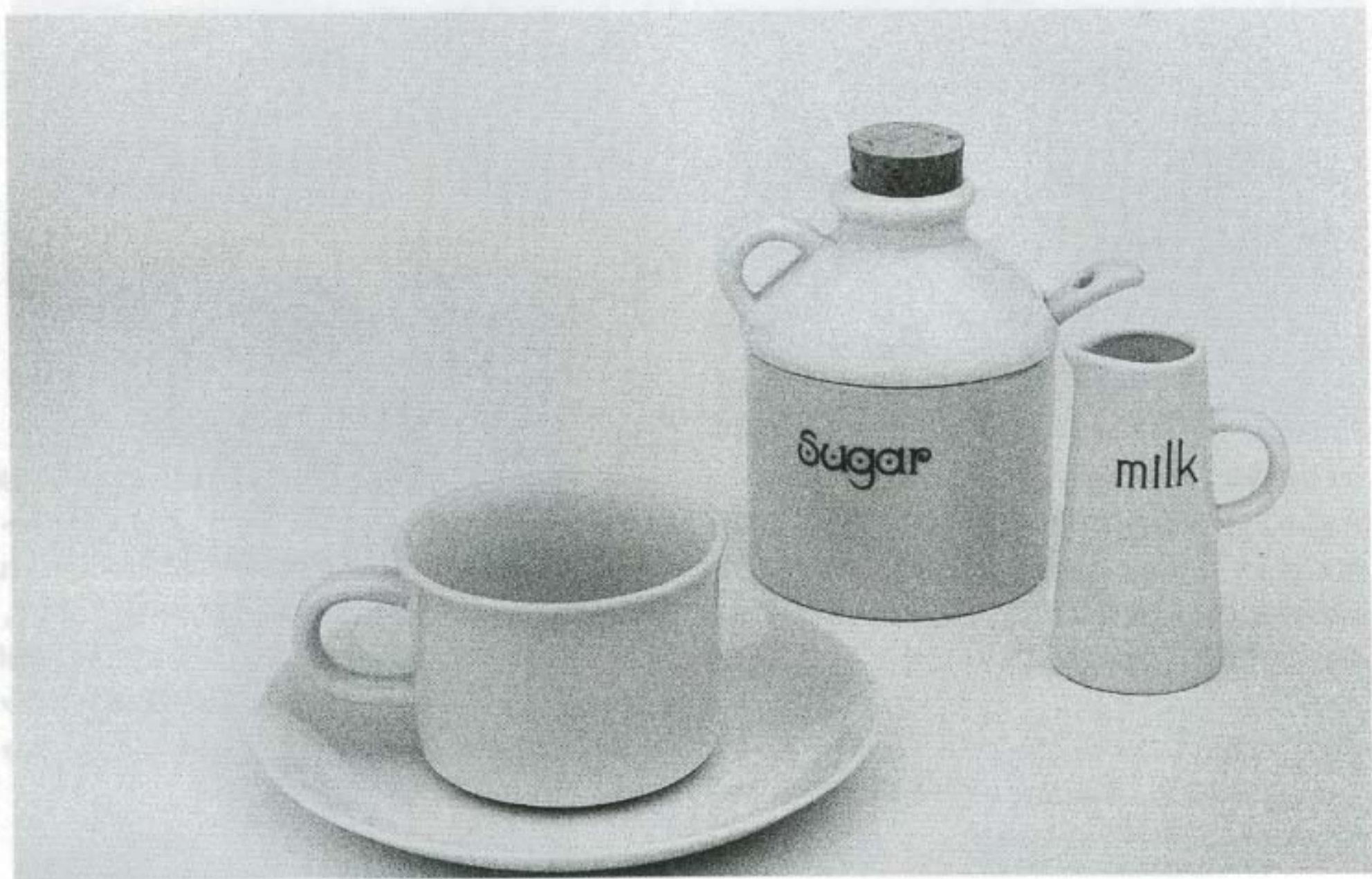




白いものを白く写すための方法です。  
作例のように画面全体が白っぽい被写体のときに有効です。このような被写体を写した場合、普通のAE露光では白がグレイに写し込まれてしまいます。  
白く表現したい部分をスポット測光して、その後にハイライトボタンを押してください。これで白が白として再現されるような露出値が自動的に演算されます。  
作例では、食器の一番明るい部分でスポットをとりました。これで食器が、ハイライトになるように露出値が演算

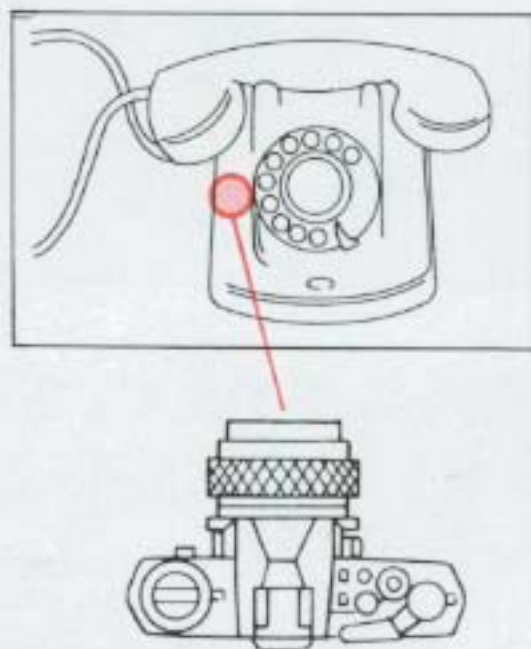


されます。その結果食器は、グレイになることなく白く描写されます。何点かスポット入力した後にハイライトボタンを押した場合は、入力された一番明るい部分を白く描写する露出値が演算されます。なおハイライトコントロール状態にした後に、もう一度ハイライトボタンを押すとハイライトコントロールのみが解除されスポット測光に戻ります。クリアレバーでも解除できます。この場合は中央重点平均測光に戻ります。





黒いものを黒く写すための方法です。作例のように画面全体が黒っぽい被写体を写した場合黒がグレイとして写し込まれてしまいます。黒く表現したい部分をスポット測光して、その後にシャドーボタンを押してください。これで黒が黒として再現される露出値が自動的に演算されます。作例では電話器のディープシャード一部をインプットしました。その結果、画面はグレイになることなく、黒い部分がきちんと黒く写し込まれます。



また、黒くつぶれて無視されてしまうダークサイドの微妙なトーン変化を表現するのにも有効です。何点かスポット入力した後にシャドーボタンを押した場合は、入力された一番暗い部分を黒く描写する露出値が演算されます。シャドーコントロール状態にした後に、もう一度シャドーボタンを押すとシャドーコントロールのみが解除されスポット測光に戻ります。中央重点平均測光に戻す場合は、クリアレバーを操作してください。







実際に撮影した露出レベルをカメラに記憶し、同じ露出レベルで何枚も写真を撮るための機構です。ダイレクト測光・スポット測光・ハイライトコントロール・シャドーコントロールのどのケースでも利用できます。撮影者が決定した露出レベルで、繰返し写真を撮りたいときに便利です。

たとえば同じライティングで人物を撮影しても、衣裳が変わると、それに影響されて顔の露出値に大きな差が出ます。一度決めた顔の明るさをメモリーしておけば、衣裳やバックがどのように変わっても、顔の露出レベルが一定の写真が何



枚でも撮れます。この機能はパノラマ写真にも活用できます。またメモリーでは、記憶した露出レベルを変えないで、自由に絞りやシャッタースピードを選べます。露出レベルを一定にして被写界深度を連続的に変えたり、シャッタースピードを連続して変えることも可能です。このほかスポット測光でモータードライブ撮影するケースでは、メモリーはぜひとも必要な機能です。もし解除しなくてもメモリーは撮影後約60分で自動的に解除されます。メモリーを解除したい場合はクリアレバーを操作してください。



パノラマ撮影をする場合、カメラを向ける方向により撮影条件が異なるので、通常の撮影では上の3枚の写真のように、それぞれの露出レベルが違ってきてしまいます。

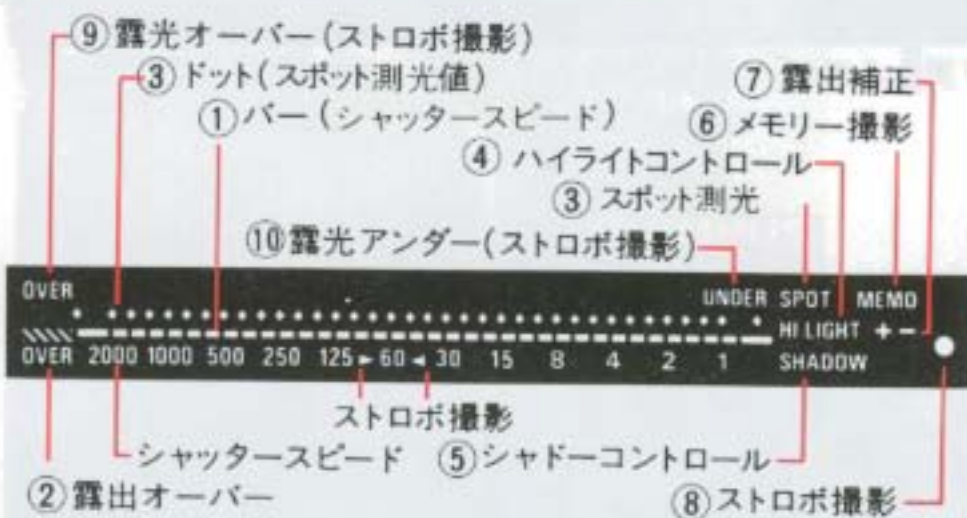


メモリー機能を活用すれば、撮影条件が変わっても、上の写真のように露出レベルを合わせることができます。

## ファインダー表示

OM-4チタンは、大型液晶ディスプレイに撮影の情報を明確に表示します。このためファインダーから眼を離すことなく撮影に集中することができます。なお、オート時とマニュアル時では下のようにファインダー表示が変わります。

### 〈オート撮影時のファインダー表示〉



① 測光値をバーでアナログ的に表示。② 露出オーバーの場合は **OVER** が点滅。③ スポット測光時は **SPOT** が点灯。入力した測光値および測光中の輝度値をドットで表示。④ ハイライトボタンを押した場合は **HI. LIGHT** が点灯。⑤ シャドウボタンを押した場合は **SHADOW** が点灯。⑥ メモリー

撮影ではスタンバイ時に **MEMO** が点灯。シャッターレリーズ後は点滅に。⑦ 露出補正時は **+** が点滅。⑧ ストロボ充電完了時は緑のLEDが点灯。適正発光するとLEDは点滅に。⑨ ストロボの発光量がオーバーのときは **OVER** が点滅。⑩ 光量不足の場合は **UNDER** が点滅します。(Tシリーズストロボ、F280閃光発光モード使用時)

### 〈マニュアル時のファインダー表示〉



① 適正露出を与える定点を表示。② 設定したシャッタースピードを表示。③ 測光値をバーでアナログ表示。④ スポット測光時は **SPOT** が点灯。入力した測光値および測光中の輝度値をドットで表示。⑤ ハイライトボタンを押した場合は **HI. LIGHT** が点灯。⑥ シャドウボタンを押した場合は **SHADOW** が点灯。⑦ ストロボ充電完了時は緑のLEDが点灯、フル発光するとLEDは消えます。(Tシリーズストロボ、F280閃光発光モード使用時)

## フルシンクロフラッシュF280の活用

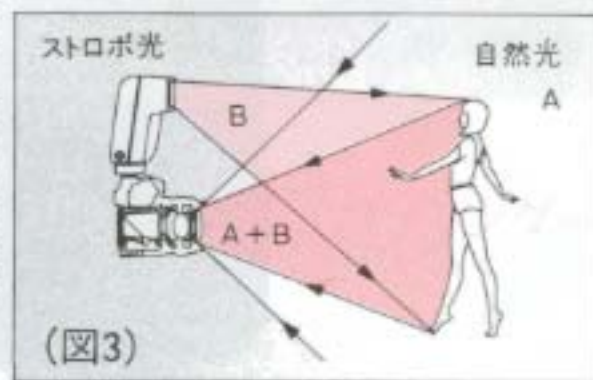


OM-4チタンは、オリンパスが世界に先駆けて開発したフルシンクロフラッシュF280を完全駆使します。これまで、一眼レフのストロボシンクロ速度は、そのほとんどが $\frac{1}{60}$ ~ $\frac{1}{125}$ 秒、最速のものでも $\frac{1}{250}$ 秒に限定されていました。これは、一眼レフのシャッター機構とストロボが閃光発光であることに起因します。オリンパスでは、ストロボの発光そのものをまったく新しい発想でとらえた世界初のスーパーFP発光方式を開発。シャッター速度 $\frac{1}{2000}$ 秒までのストロボ全速同調を実現しました。このスーパーFP発光を搭載したF280+OM-4チタンの組み合わせによるフルシンクロフラッシュシステムは、特に逆光シーンなどに行なわれる日中シンクロ撮影で威力を発揮します。従来、一眼レフによる日中シンクロ撮影は、高度な技術を要する難しい撮影でした。操作自体は簡単になっても閃光発光ではフラッシュ光が強すぎたり、また絞りが制限されるので映像の表現が限られるなど、多くの課題が残されていたのです。フルシンクロフラッシュシステムは、このような難題をすべて克服。「絞りを自由に選びバックのポケ味を生かした写真も思いのまま」。誰もがプロなみの映像をよりカンタンに、よりクリエイティブにお楽しみいただけます。

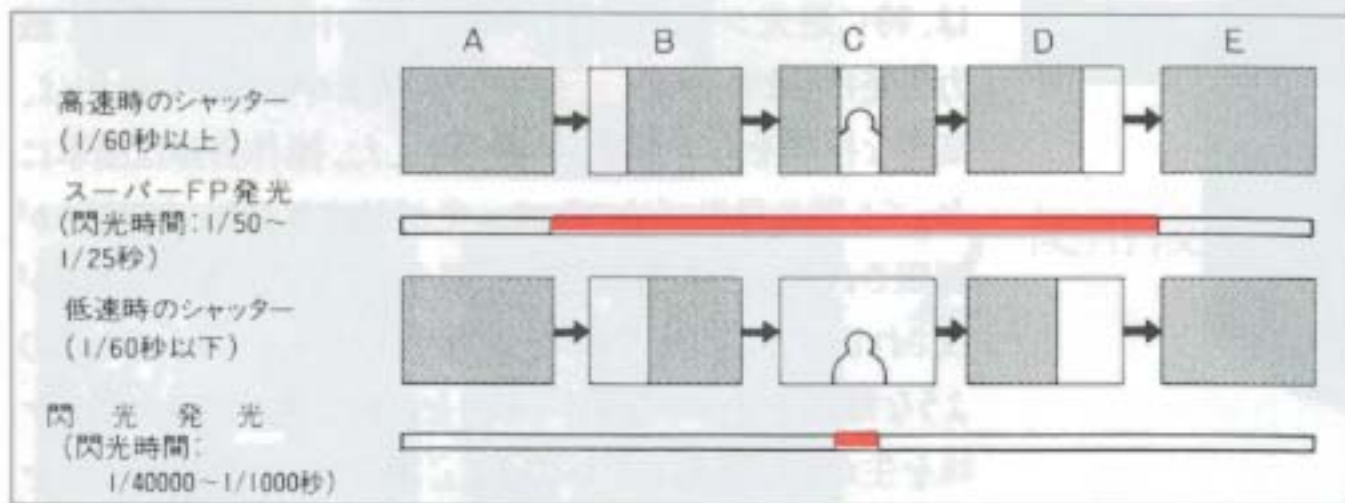
## ■スーパーFP発光（ここでの説明は、フォーカルプレーンシャッターを基本にしています。）

従来の閃光発光によるストロボ撮影は、シャッター幕が全開した瞬間に数万から数千分の1秒という極めて短時間の発光をしてフィルム面に露光します(図1)。しかし、この閃光発光は全開になる低速側では対応しますが、シャッター幕がスリット状になる高速側では画面の一部しか露光されません(図2)。オリンパスは、この問題をスーパーFP発光で解決しました。これは、シャッターが開く直前から閉じるまでストロボの発光を持続させることで高速側でも画面全体に露光を与えることができる画期的システムです。フルシンクロ

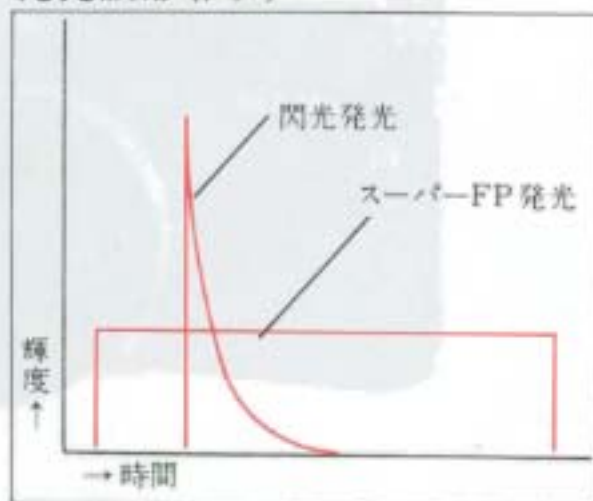
フラッシュF280は、閃光発光とスーパーFP発光という2つの発光モードを搭載。世界で初めてストロボ全速同調を実現しています。このスーパーFP発光による日中シンクロ(図3)は、シャッターを切った瞬間の光(自然光とストロボ光の合成された光)をTTLダイレクト測光し、適正露出をシャッタースピードにより制御します。



### ストロボのシャッター同調(図2)



### 発光波形(図1)



- 閃光発光/低速時 - ③で同調。高速時 - 同調不可能(③のようなスリット状にシャッター幕の影ができる)
- スーパーFP発光/高速時 - ②~④で同調

## ■日中シンクロ撮影

スーパーFP発光を利用した日中シンクロ撮影には、すぐれた特徴があります。2枚の作例をご覧ください。下は従来の閃光発光、上はスーパーFP発光での日中シンクロ撮影の結果です。閃光発光の場合、シャッタースピードを低速側に設定する都合上、絞りは絞り込みの状態になります。そのため、どうしてもパンフォーカス気味になり、うるさい背景までも写し込んでしまいます。ところが、スーパーFP発光の場合は、シャッタースピードに関係なく絞りを自由に行きわたるので被写界深度を生かした日中シンクロ撮影ができます。たとえば作例のような逆光でのポートレートでもバックをボカすといった創造的なテクニックを思いのままに駆使できます。また、フラッシュ光が強すぎるということがなく、奥行きのある自然な日中シンクロ写真を誰でも簡単に写すことができます。

任意のシャッタースピードを落します。

スーパーFP発光  
F1.4



閃光発光  
F16





### ①逆光時の日中シンクロ撮影の場合

人物と背景の明暗差をカバーするためにスーパーFP発光で撮影。水の動きを止め、さらにバックをボカすといった閃光発光では難しい高速での日中シンクロ撮影も思いどおり。創造的なストロボ撮影が可能です。

### ②③ブレによる動きを生かしたストロボ撮影の場合

閃光発光では動きが止まってしまう被写体も、スーパーFP発光で撮るとご覧のとおり。人物の動きを生かせる低速でのストロボ撮影が可能です。





## 露出補正

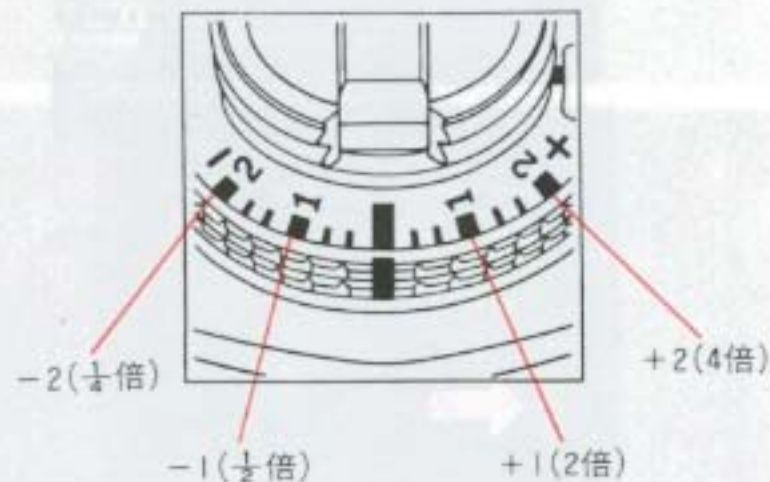
(P.47参照)

OM-4チタンでは、オートおよびマニュアルの何れのモードのときも、露出補正ダイヤルによる露出補正が可能です。被写体よりバックが明るいときはダイヤルを回転して+側に合わせます。+1で2倍、+2で4倍の露光を与えることができます。

被写体よりバックが暗いときはダイヤルを回転して-側に合わせます。

なお、補正ダイヤルを回すとファインダー内に「+」表示が点滅。バー表示は補正量に従ってシフトします。

スポット測光した後、補正ダイヤルを操作すればバー表示のみがシフトします。



## 被写界深度

ある一点にピントを合わせると、その前後に鮮明に写る範囲があります。この写る範囲を被写界深度といいます。深度は、絞りを絞れば絞るほど、レンズの焦点距離が短かければ、短かいほど深くなります。実際の絞りの効果はプレビューボタンを押すと、ファインダー内でみられます。

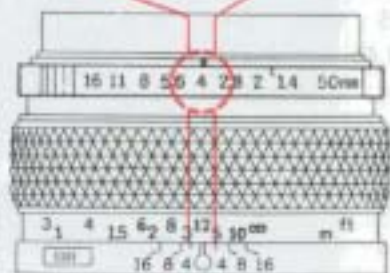
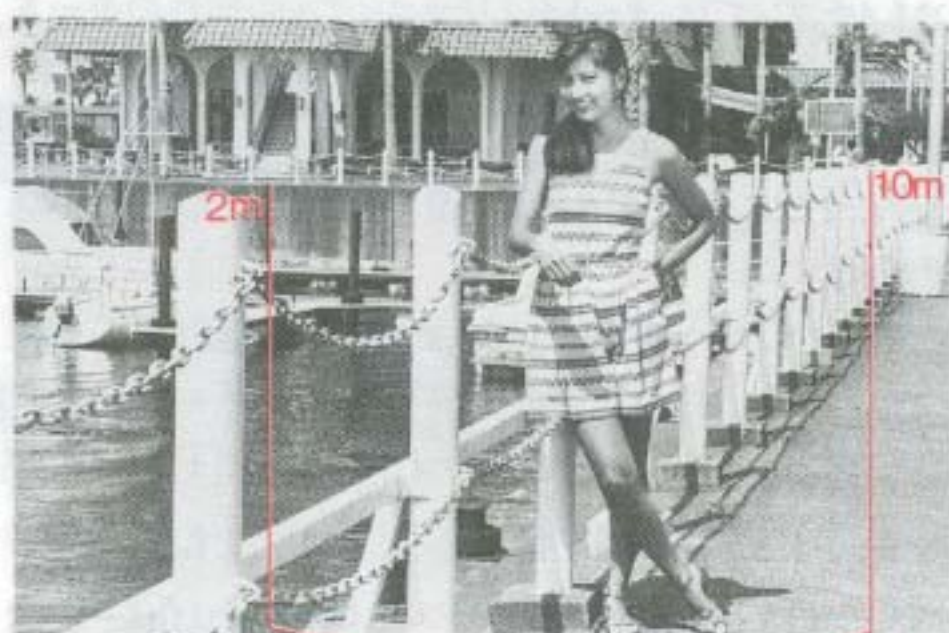
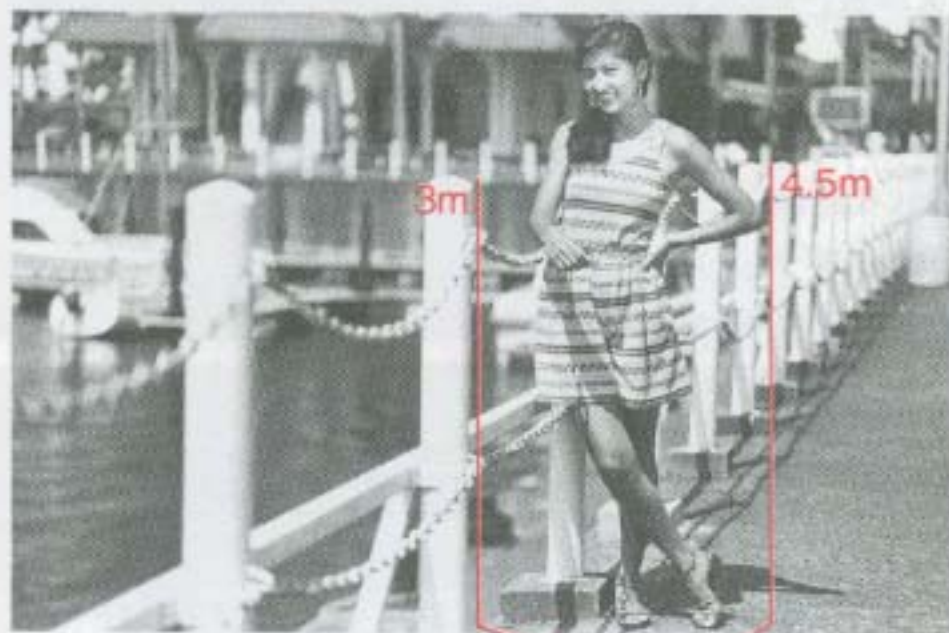
### ●被写界深度表

たとえば距離3m、絞り16で撮影したときは、1.93mから6.93mまでピントが合うことを示しています。

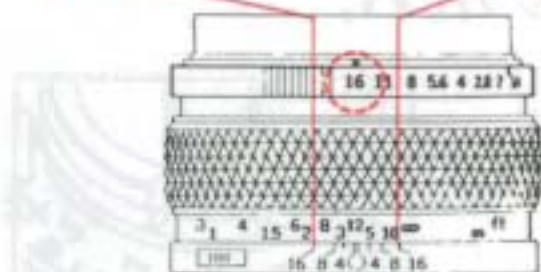
(F1.8 F1.4標準レンズの場合でF1.2はこれに準じる)許容ボケの直径 $\mu\text{m}$

絞り	ピントを合わせた距離(メートル)									
	0.45	0.5	0.7	1	1.5	2	3	5	10	$\infty$
1.4	0.45 -0.45	0.50 -0.50	0.69 -0.71	0.99 -1.02	1.47 -1.54	1.94 -2.07	2.85 -3.16	4.61 -5.46	8.55 -12.05	57.78 ~ $\infty$
1.8	0.45 -0.45	0.50 -0.50	0.69 -0.71	0.98 -1.02	1.46 -1.55	1.92 -2.09	2.82 -3.20	4.56 -5.60	8.21 -12.79	45.05 ~ $\infty$
2	0.45 -0.45	0.50 -0.50	0.69 -0.71	0.98 -1.02	1.45 -1.55	1.91 -2.10	2.80 -3.23	4.47 -5.68	8.05 -13.20	40.57 ~ $\infty$
2.8	0.45 -0.45	0.49 -0.51	0.69 -0.71	0.97 -1.03	1.43 -1.57	1.88 -2.14	2.73 -3.33	4.28 -6.01	7.47 -15.15	29.02 ~ $\infty$
4	0.44 -0.46	0.49 -0.51	0.68 -0.72	0.96 -1.04	1.41 -1.61	1.83 -2.20	2.63 -3.49	4.04 -6.57	6.74 -19.44	20.35 ~ $\infty$
5.6	0.44 -0.46	0.49 -0.51	0.67 -0.73	0.94 -1.06	1.37 -1.66	1.77 -2.29	2.51 -3.74	3.75 -7.52	5.96 -31.31	14.55 ~ $\infty$
8	0.44 -0.46	0.48 -0.52	0.66 -0.74	0.92 -1.09	1.32 -1.73	1.69 -2.45	2.34 -4.18	3.39 -9.61	5.09 378.10	10.21 ~ $\infty$
11	0.43 -0.47	0.48 -0.53	0.65 -0.76	0.90 -1.13	1.27 -1.84	1.60 -2.68	2.17 -4.91	3.02 -14.74	4.30 ~ $\infty$	7.44 ~ $\infty$
16	0.43 -0.48	0.47 -0.54	0.63 -0.79	0.86 -1.20	1.19 -2.05	1.47 -3.17	1.93 -6.93	2.57 138.43	3.42 ~ $\infty$	5.13 ~ $\infty$

# 深度目盛



レンズマウント環上、指標の左右に4、8、16の数字が対称に刻まれています。絞りを決めピントを合わせたとき、この左右対称の数字の間にある距離目盛の範囲が、ピントの合う範囲を示しています。

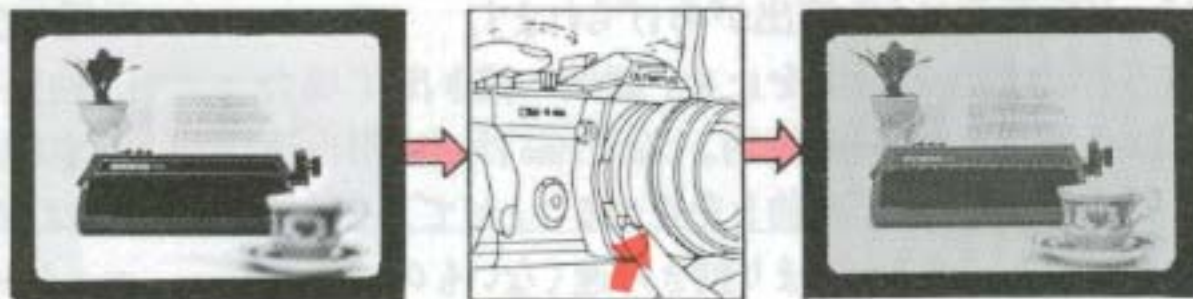


## 被写界深度を目で確かめたいとき

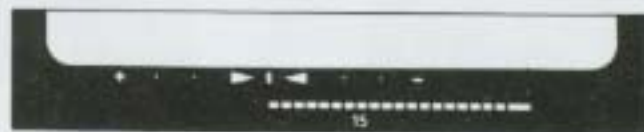


ファインダー内でピントの合う範囲を直接目で確かめたい場合があります。そのときは、このプレビューボタンを押すと、セットした絞りまで絞られ、ピントの合う範囲やバックのボケ具合が直接見られます。プレビューボタンは、ボタンの中央部を押すようにしてください。このときファインダー内は暗くなりボケ具合が確認できます。

※ シャッターレリーズボタンを途中まで押して、プレビューボタンを急速に押すと、シャッターが切れることがあります。



## シャッタースピード



カメラによる映像表現の一手段としてシャッタースピードの変化による演出があげられます。

被写体の動きの瞬間を止め、鮮明に描き出す場合には高速シャッターを使用。 $1/500$ ～ $1/2000$ 秒では相当速く動いているものでも動きを止めることができます。遊んでいる子供などあまり動きの速くないものであれば $1/250$ 秒ぐらいでも充分でしょう。

スローシャッターを使ったブレによる動感の描写には2通りあります。ひとつは被写体そのものの動きをブレることにより、流動感を表現します。もうひとつの

方法は被写体の動きに合わせてカメラをパンする流し撮りです。被写体はブレず背景がブレることにより流動感を出すことができます。スローシャッターを使用する場合、手ブレには注意が必要です。手ブレを防ぐために一般にレンズの焦点距離分の1以上のシャッタースピードを選べばよいと言われます。たとえば50mm標準レンズのときは $1/60$ 秒以上、200mm望遠レンズのときは $1/250$ 秒以上のシャッタースピードを選べば、手ブレを防ぐことができます。



天体写真や夜景などでシャッタースピードが長時間になるときは、B（バルブ）で撮影してください。

バルブは、メカニカルシャッターですから電池の消耗はありません。

※シャッタースピードが長時間になるときは、ブレやすくなりますから、三脚とケーブルリリースの使用を、おすすめします。



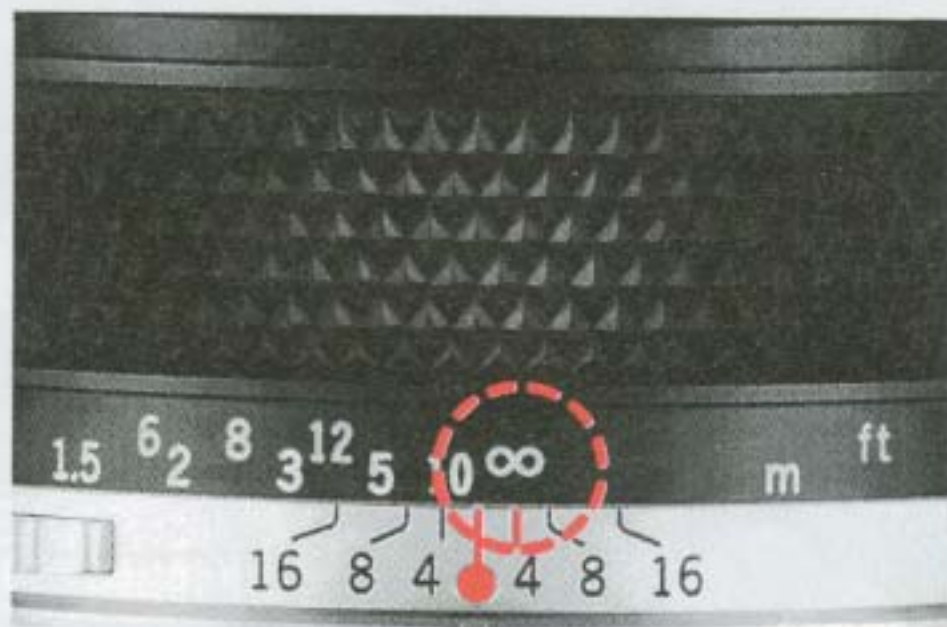
## 多重露光

同じ画面に複数回シャッターを切り、画像をだぶらせて写すテクニックです。

- ①第1回の露光が終わったら、フィルムのたるみをとるため、巻戻しクラックを起して右回転させ止まるまで回します。
- ②巻戻しノブと巻戻しボタンが動かないように両方同時にしっかり押えたままフィルムを巻上げます。  
こうするとフィルムは巻上げられずにシャッターだけがセットされます。
- ③一般の撮影と同じようにリリースボタンを押せば、二重露光になります。
- ④さらに②③の操作を繰り返しますと、何回でも露光ができます。フィルムの駒数計は多重露光分だけ進みます。
- ⑤多重露光をし終わったら、フロントレンズキャップをして1駒分空写してください。

※画面はすこしずれることがあります。

## 赤外線写真撮影



赤外線フィルムと赤フィルターを使って赤外写真を撮る場合は、眼でみてピントを合わせても、赤外線でのピント面とは少しずれています。レンズによってそのずれの差が違いますので、各レンズの深度目盛の中に赤線または赤点を入れて表示してあります。実際にはまず、フィルターなしで普通にピントを合わせます。そのときの中心指標に合った距離目盛を赤外線指標までずらし、フィルターをかけてから撮影してください。(写真は距離が無限遠)。

※オートでは撮影できません。



# OMシステムの使い方



## ストロボ撮影 (ここでの説明は、Tシリーズストロボ、およびF280のTTLオートストロボ (閃光発光) 撮影) が中心です。



ストロボの光は、ランプに比べて太陽光に非常に近く、昼光用のカラーフィルムにも適合するので、さまざまな撮影に利用できます。

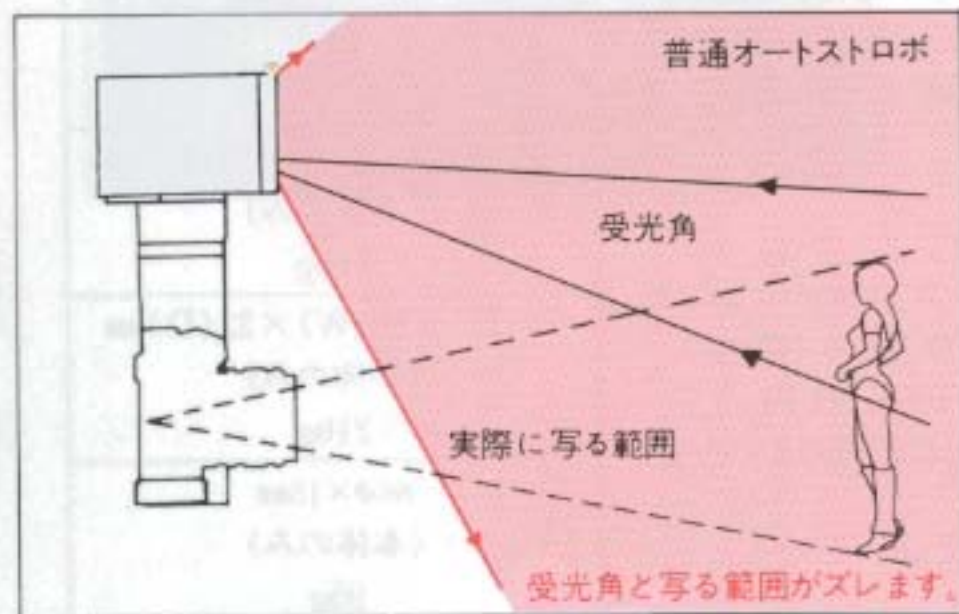
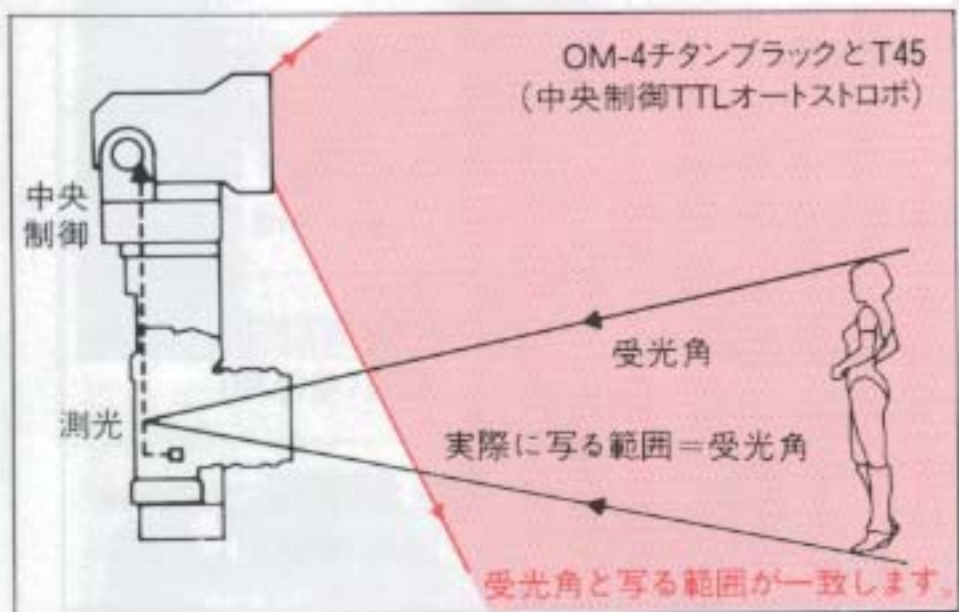
たとえば、暗い場所ではスローシャッターになるのでどうしてもカメラブレがおこりやすくなります。また蛍光灯や電灯下では、画面の色彩バランスがくずれてきれいな色が得られないことが多いものです。こういった場合、ストロボを使えばカメラブレや発色の心配をすることなく気軽に写せます。

このほかにも、動きの激しい被写体を瞬間光で写し止めたり、逆光時やコントラストが強すぎる場合、その暗部を補って適度にバランスさせる、いわゆる日中シンクロといった使い方もできます。

OM-4チタンは、Tシリーズストロボを完璧に制御。ISOや絞りのセット、モード切換え、露出補正などストロボ側の操作は一切不要です。またフィルムに写りつつある光を測るTTLダイレクト測光ですから、従来のようなストロボの受光部と実際に写る範囲のズレといった問題もなく露出の誤差がありません。バウンス、ディフューズ、超近接、多灯などの特殊テクニックもフルオートで簡単に行えます。もちろん、普通オート、マニュアルでのストロボ撮影も可能です。



## ■OM-4チタンブラックのTTLオートストロボ



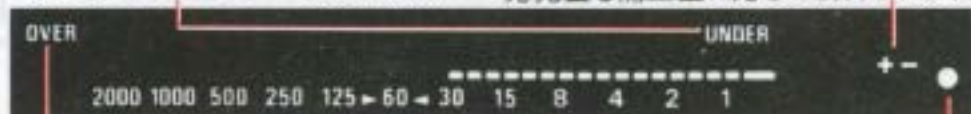
## ■Tシリーズストロボの使い方

Tシリーズストロボを使用するときは、カメラのモードによってストロボのモードも自動的に切り換わります。

オート撮影をする場合は、カメラのモード切換えレバーを **AUTO** にセットします。ファインダー内に緑のLEDが点灯したらストロボ充電完了。撮影できます。撮影後緑のLEDが点滅したら適正発光で撮影されています。また **UNDER** 表示が点滅したときは光量不足。絞りを開放側に再セットしてください。 **OVER** 表示が点滅したときは光量オーバー。絞りを小絞り側に再セットして撮影してください。なお、シャッタースピードが $\frac{1}{60}$ 秒より高速になる場合は、ストロボは発光しません。通常のオート撮影に自動的に切り換わります。

マニュアル撮影をする場合は、カメラのモード切換えレバーを **MANUAL** にセットし、シャッタースピードを $\frac{1}{60}$ 秒以下に合わせます。ストロボの光量はつねにフル発光です。なお、詳細はストロボの説明書をごらんください。

発光後、光量アンダーのとき点滅。 +-補正可能。 発光量も補正量に応じて制御されます。



発光後、光量オーバーのとき点滅。

ストロボ充電完了時点灯。  
適正発光時点滅。

## ■ Tシリーズストロボのおもな仕様

	ガイドナンバー (ISO 100・m)	照射角度	閃光時間	発光回数	寸法・重量
エレクトロニック フラッシュ T 45	45	上下 53° 左右 74°	1/40,000秒 ∟ 1/1,000秒	Ni-Cdパックで100～500回 (オート撮影距離により変わる)	283(H)×87(W)×116(D)mm 1,120g(電池別)
エレクトロニック フラッシュ T 32	32	上下 53° 左右 74°	1/40,000秒 ∟ 1/1,000秒	単3形アルカリ電池で 100～500回 (オート撮影距離により変わる)	81(H)×70(W)×104(D)mm 320g(電池別)
エレクトロニック フラッシュ T 20	20	上下 40° 左右 58°	1/40,000秒 ∟ 1/1,000秒	単3形アルカリ電池で 120～500回 (オート撮影距離により変わる)	68(H)×57(W)×77(D)mm 160g(電池別)
エレクトロニック フラッシュ T 18	18	上下 38° 左右 58°	1/40,000秒 ∟ 1/1,000秒	単3形アルカリ電池で 120～500回 (オート撮影距離により変わる)	90(H)×52(W)×45(D)mm 105g(電池別)
T28マクロ シングルフラッシュ I	28	上下 53° 左右 74°	1/40,000秒 ∟ 1/1,000秒	Tパワーコントロール 1による 単3形アルカリ電池で 100～500回 (オート撮影距離により変わる)	73(H)×50(W)×32(D)mm (本体のみ) 110g
T28マクロ ツインフラッシュ I	28 (1灯使用時) 22 (2灯使用時)	上下 53° 左右 74° (1灯時)	1/40,000秒 ∟ 1/1,000秒		73(H)×50(W)×32(D)mm (本体のみ) 210g
T10マクロ リングフラッシュ I	10	80°	1/40,000秒 ∟ 1/330秒		86φ×18mm (本体のみ) 95g

T 8 リングフラッシュ2	8	80°	1/40,000秒   1/330秒	Tパワーコントロール1による 単3形アルカリ電池で 100~500回 (オート撮影距離により変わる)	本体:91φ×18.5mm、110g リフレクター1:200φ×32mm、80g リフレクター2:150φ×32mm、40g
------------------	---	-----	--------------------------	---	--

## ■フルシンクロフラッシュF 280のおもな仕様

ガイドナンバー (ISO100・m)	照射角度	閃光時間		発光回数	寸法・重量
		スーパーFP発光	閃光発光		
28 (閃光発光時)	上下 53° 左右 74°	1/50秒   1/25秒	1/40,000秒   1/1,000秒	単3形アルカリ電池で 80~600回 (発光モード・撮影条件により変わる)	110(H)×68(W)×71(D)mm 250g(電池別)

## ■Tシリーズ以外のストロボを使うとき

### ①シューにストロボを取りつけます。

ダイレクト接点でないストロボは付属のコードをPCシンクロソケットに接続して使用してください。

### ②絞りを決めカメラにセットします。

オートストロボの場合/ストロボ上に指示されたオート絞り値をカメラの絞り環にセットします。

マニュアルストロボの場合/使用するストロボのGN (ISO100・m) から公式(絞り) =  $\frac{\text{ストロボGN}}{\text{被写体までの距離(m)}}$  による計算もしくは、ストロボの計算板により絞りを求めます。決めた絞りをカメラの絞り環にセットします。

### ③カメラのモードをマニュアルにしてシャッタースピードを $\frac{1}{60}$ 秒以下で撮影して下さい。

※お手持ちのストロボの使用説明書をよく読んでお使いください。

## ■ バウンス撮影



T45は、単体でも発光部が上に90°まで向けられ、しかもTTLオートですから、光を散らすバウンス撮影もただスイッチをONにするだけで、簡単にオートで写せます。

※直射光が被写体に当たらないように、バウンス角度を決めてください。

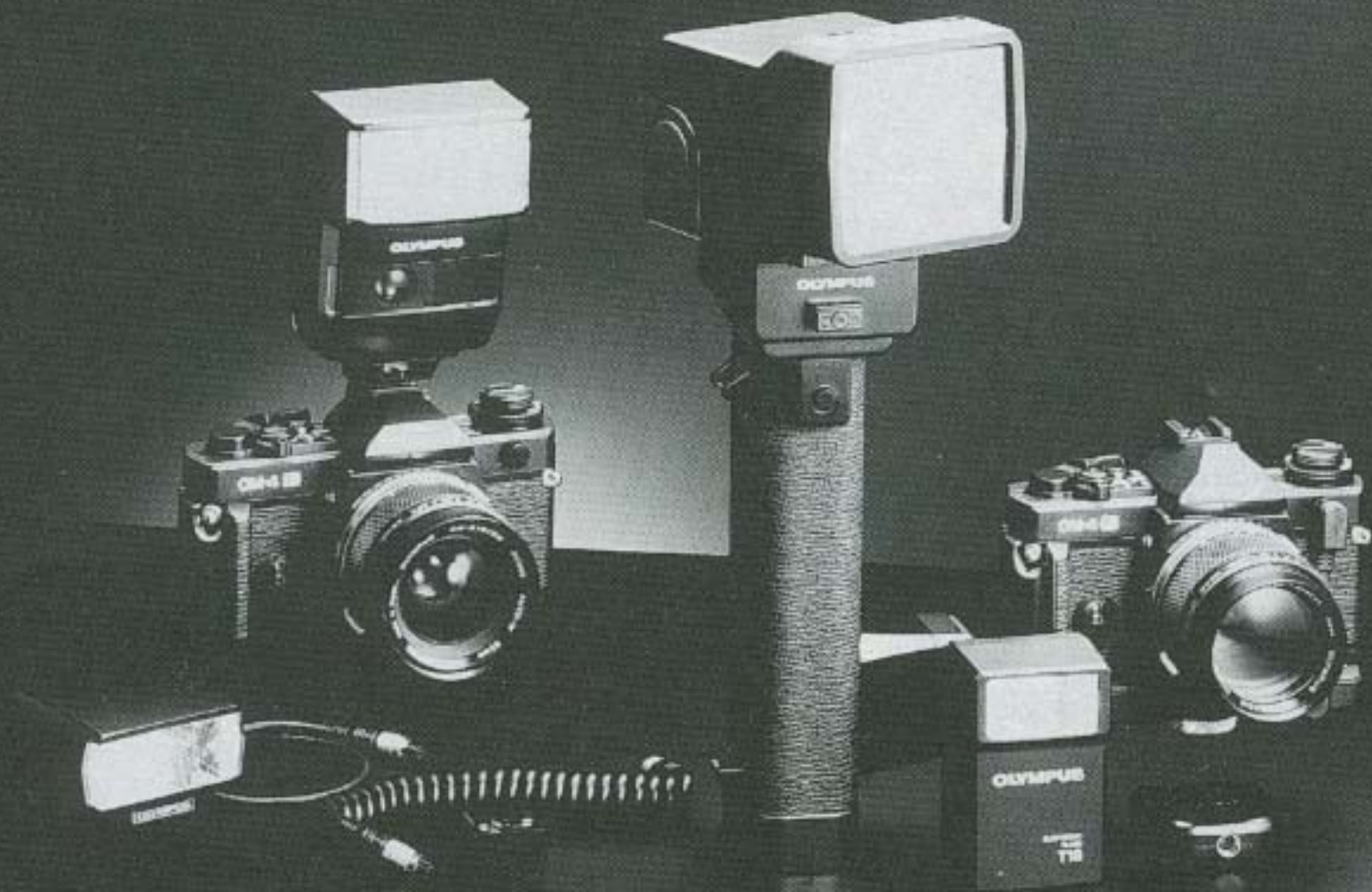


エレクトロニックフラッシュT45

## ■ 近接撮影



TTLオートでは全絞りが使えますから、近接撮影もスイッチをONにするだけで簡単にオートで写せます。



## ■モータードライブ撮影



1秒間に何コマも撮影して瞬間の表情をも逃さないところにモータードライブ撮影の醍醐味があります。

OMシステムの高速モータードライブは、それ本来の機動力がフルに発揮されるように、徹底した小型軽量化をはかりかつ使いやすさを追求しました。

世界初、コンピュータ内蔵の秒5コマ高速モータードライブ2はコマ数や操作手順を次々とLCD表示します。

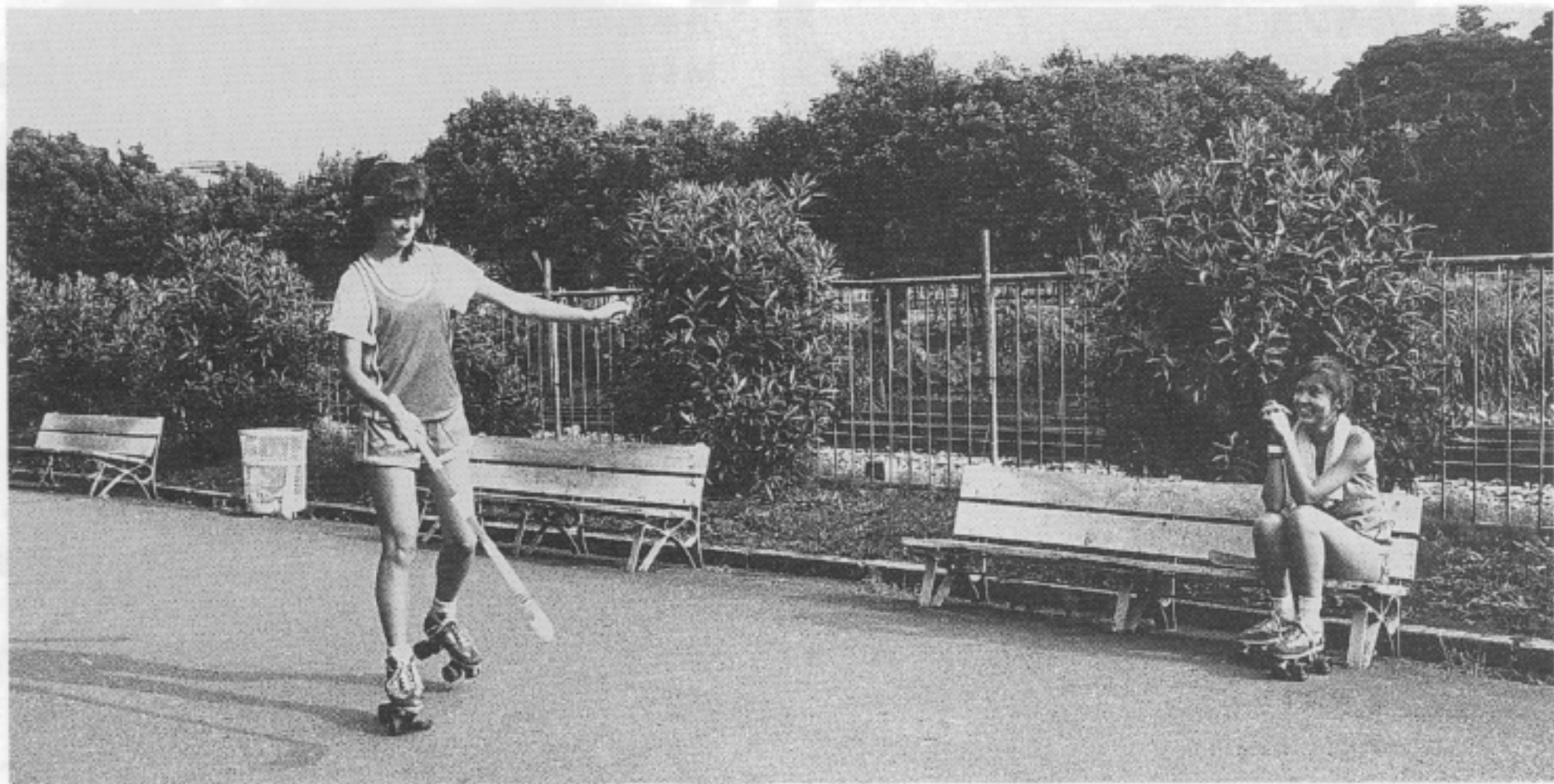
OM-4チタンに装着時は電動巻き戻しも可能です。

このほか、切換ダイヤルで1コマ撮りと連続撮影を使いこなせるワインダー2もあります。

動きの激しいスポーツ写真やドキュメンタリータッチの報道写真などでは、OMシステム独自の優れた機動性と便利な操作性が十二分にいかされています。また各種ユニットがダイレクト接点で接続可能です。

※モータードライブ1も使用可能です。

## 2 ハイライトボタンを押せばすぐメモリーモード



## ■モータードライブグループ

### ■モーターの選び方

**モータードライブ2** カーレースや疾走する動物など、コマ以下の超高速で動く被写体には最高秒5コマの連続撮影ができるモータードライブ2が有利です。この速写性が肉眼を超えた瞬間のドラマをとらえてくれます。

**ワインダー2** スポーツシーンや子供の動き表情など、鮮やかな一瞬をとらえるにはワインダー2が便利です。最高秒2.5コマの連続撮影が可能。突然のチャンスを逃がしません。

### ■電源の選び方

モータードライブ2用には、次の2種類の外部電源装置が用意されています。

**M. 15V Ni-Cdコントロールパック2** フラットタイプの充電式電源装置。専用充電器M. 15V Ni-Cdチャージャー1によるフル充電で36枚撮りフィルム約20本撮影可能。

**M. 18Vコントロールグリップ2** 望遠レンズ使用時に安定感を与えてくれるグリップタイプの電池式電源装置。36枚撮りフィルム約35本の撮影が可能です。

ワインダー2は電源を内蔵していますが、次の2種類の

外部電源装置を利用することができます。

**M. 6Vパワーパック1** 単3形電池4本使用の外部電源装置。

**6Vパワーパック2** 単1形電池4本使用の外部電源装置。

### ■長尺フィルムバックシステム

**250フィルムバック1** 連続して250コマまでの撮影が可能。フィルム交換の手間を省力化し、モーターの性能をフルに発揮させることができます。

### ■遠隔操作システム

モータードライブ2、ワインダー2ともに専用のリモートコードで簡単に遠隔操作が行えます。野鳥や動物の撮影、振動を嫌うマイクロ・マクロ撮影などにご利用ください。

**M. クォーツリモートコントローラー1** LCD表示で撮影操作とその確認が手元でできる電子カウンター付。シングルと連続の切換えも可能、連続撮影ではインターバルを0.5秒から24時間までセットできます。

**M. リモートコード1.2m、5m** モータードライブ2、ワインダー2のリモコンジャックに接続するだけでリモコン撮影が行えます。





## ■データの写し込み方



写真に日付や時間を刻めたら、写真は一枚の完璧な記録になります。結婚式や入学式、卒業式といった大切な行事、また旅の思い出など、写したその瞬間をいつまでも鮮やかに残せます。アルバムの整理もスピードアップ。各種資料の作成・整理にもご利用ください。

なおレコーデータバック4は、次のいずれかを選択して写し込むことができます。

①年・月・日(日本式日付) ②月・日・年(アメリカ式日付) ③日・月・年(ヨーロッパ式日付) ④時・分 ⑤カウンター(順算式) ⑥6桁までの固定ナンバーデータ。不要時の写し込み解除スイッチ付。タイム呼出しボタンにより時・分・秒が表示され時計としても使えます。

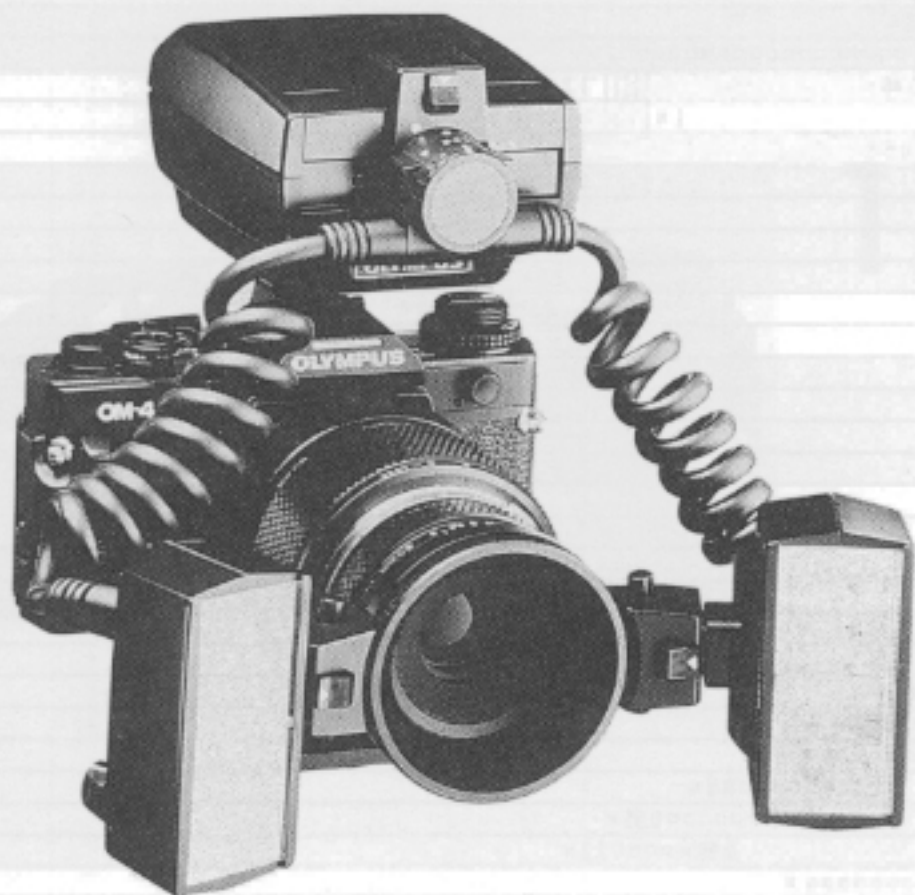


時分秒・年月日の修正/バッテリーチェック/時計呼出しボタン

データ写し込みボタン

マクロの眼で見れば世界は発見に満ちています。ところがマクロフォトは一般に難しいものとされていました。とくに普通撮影での適正露出の算出、ストロボ撮影での適正露出の算出はプロでも困難なものでした。

OM-4チタンはTTLダイレクト測光によってこの困難を解消しています。倍率や絞りに関係なく、つねに適正な露出が得られます。また、多灯時の複雑な露出計算も一切不要です。等倍あるいは拡大といった条件下で卓越の機能を発揮するマクロレンズを始め、マクロの手持ち撮影を可能にしたエクステンションユニットなど、マクロシステムも最高度の充実を誇ります。





## ■マクロフォトグループ

### ■簡易システム

等倍程度までの接写を手軽に楽しめるシステムです。筆記具や本の活字、花びんの花など、見なれた身の回りのもののなかにも発見と驚きがひそんでいます。

**クローズアップレンズ49mm・55mm f=40mm F1.8、F1.4、F1.2標準レンズ用**には49mm、55mm F1.2標準レンズ用には55mmを使用します。レンズの先端にねじ込むだけで最高0.63倍までの撮影が行えます。

**オートエクステンションチューブ7、14、25** ボディとレンズの中間に入れて使用するアダプターです。厚さは7mm、14mm、25mmの3種類。組合せて7通りに使えます。最高1.1倍の接写が可能です。

### ■基本システム

低倍率から高倍率まで、本格的なマクロ撮影ができるシステムです。たとえばトンボの複眼の幾何学的な美しさや、草花のクローズアップの不思議な世界を鮮やかな映像として表現することができます。この基本システムには、以下の屋内型と屋外型があります。

●**屋内型** 各種マクロレンズにオートベローズやマクロフォトスタンド、落射照明装置などを併用したシステムです。

拡大倍率の高い撮影をスタジオや室内で行うのに適しています。

**オートベローズ** 各種照明装置や架台と組合わせてシステム展開できる基本ユニットです。OMシステムの各種レンズがプリセット絞りとして使える絞り込みレバーと、ダブルケーブルリリースの併用により自動絞りで撮影できる機能をもっています。

**ズイコーマクロ20mm F2** 大口径のマクロ専用レンズです。オートベローズの使用で、5.3倍から13.6倍までの撮影が可能。微調整用ヘリコイド付きです。

**ズイコーマクロ38mm F2.8** マクロ専用レンズです。オートベローズの使用で2.3倍から6.7倍までの拡大撮影が可能です。微調整用ヘリコイド付きです。

**VST-1マクロフォトスタンド** 接写・拡大撮影専用の安定性のある小型高級スタンド（クレンメル付き）で、ステージガラス（乳白）がセットで付いています。

**PM-LSD 2 落射照明装置** マクロフォトには欠かせない、2個1組の落射照明装置です。斜光落射照明として直接使うこともできますし、垂直落射照明にも使えます。

●屋外型 マクロレンズにオートエクステンションチューブ65～116などを組み合わせた、手軽で機動性に富んだシステムです。

**オートエクステンションチューブ65～116** チューブ長が自在に伸縮し、65mmから116mmの範囲で撮影距離・倍率を自在に変えられます。ズイコーマクロ80mm F4や135mm F4.5との組み合わせで、機動性の高い屋外撮影に適したシステムを作ることができます。

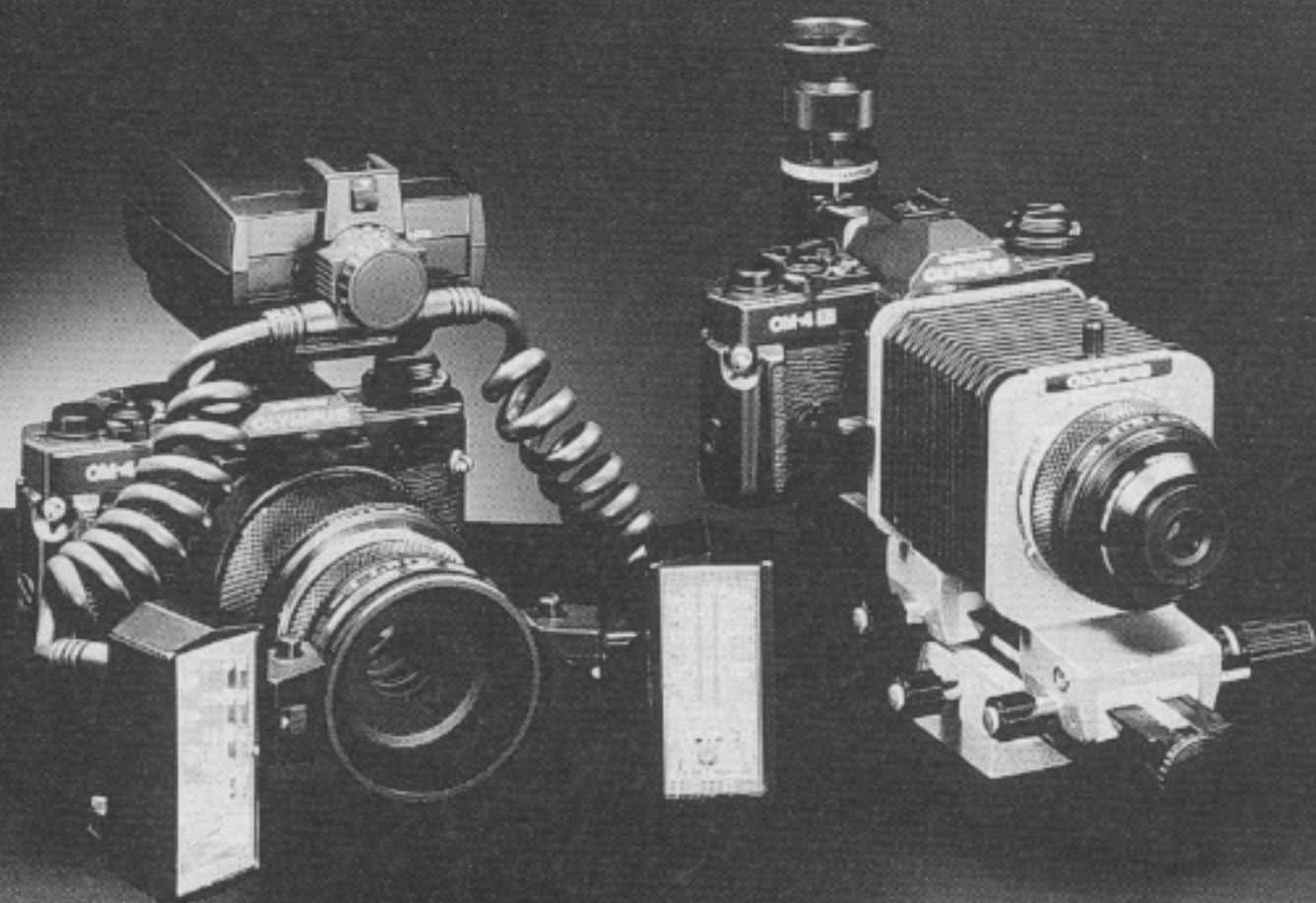
**ズイコー1:1マクロ80mm F4** マクロ専用レンズです。像倍率は $\frac{1}{2}$ 倍から2倍。オートエクステンションチューブ65～116かベローズを併用して使います。微調整用ヘリコイドを内蔵しています。

**ズイコーマクロ135mm F4.5** オートエクステンションチューブ65～116との組み合わせでは0.43倍まで撮影可能ですが、一般撮影用の望遠135mmとしても使える撮影範囲の広いレンズです。微調整用ヘリコイドを内蔵しています。



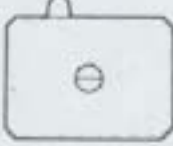




**ズイコーマクロ50mm F3.5** 近接撮影はもちろん、標準レンズとしても使える便利なレンズです。設計基準倍率は0.1倍にとってありますが、近距離・遠距離収差補正機構を採用しており、 $\frac{1}{\infty}$ ～0.5倍まで高い解像力を発揮します。

**ズイコーマクロ50mm F2** 標準レンズ並の明るさを誇る大口径マクロレンズです。設計基準倍率は0.1倍。ほぼ新聞 $\frac{1}{4}$ ページ大に合わせてあります。近距離・遠距離収差補正機構の採用により、無限遠から0.24mの至近距離まで優れた描写力を示します。



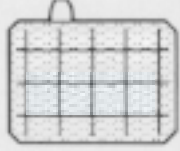


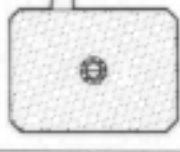
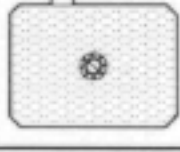
**ズイコーマクロ90mm F2** 各種アタッチメントを使わなくても $\frac{1}{2}$ 倍の接写が可能。しかも無限遠までをカバーする大口径F2の望遠マクロです。ワーキーンディスタンスが十分にとれるのでライティングがしやすく、離れた場所からの近接撮影には特に有利。大口径レンズならではのピントの合わせやすさ、そしてボケの美しさ。本格的なマクロ世界からポートレート写真まで鮮やかな描写力で対応する汎用性の高い望遠マクロレンズです。



## ■フォーカシングスクリーンの選び方

<p>1-1 マイクロマット式 (一般全レンズ用)</p>		<p>一般撮影に最適な標準タイプです。中央のマイクロプリズム部およびマット面で、正確なピントが合わせられます。レンズの開放絞りがF5.6以上暗くなりますと、マイクロプリズム部に黒いかげりがでてきますので、ピントはマット面で合わせてください。</p>
<p>1-2 マイクロマット式 (望遠、標準レンズ用)</p>		<p>標準から望遠レンズに適した一般撮影用のスクリーンで、中央のマイクロプリズム部およびマット面でピントが合わせられます。レンズの開放絞りがF8以上暗くなりますとマイクロプリズム部に黒いかげりがでますので、ピントはマット面で合わせてください。</p>
<p>1-3 スプリットマット式 (一般全レンズ用)</p>		<p>一般撮影に適し、正確なピント合わせができます。標準タイプの1-1と同じ目的に使えますが、上下像合致式を好まれる方に最適です。スプリットプリズムの上下の像が一致するようにピントを合わせます。レンズの開放絞りがF5.6以上暗くなりますと、スプリットプリズム部に黒いかげりができます。</p>
<p>1-4N 全面マット式 (一般全レンズ用)</p>		<p>一般撮影に適し、マイクロプリズムやスプリットプリズムのないすっきりした視野を好む人、また特にマット面でのピントを合わせる人には便利です。超望遠レンズやマクロレンズとかベローズを使った接写などでの撮影には最適です。スポットサークル入りです。</p>
<p>1-5 マイクロ透過式 (広角、標準レンズ用)</p>		<p>広角、標準レンズに適した透明なスクリーンですので、暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。広角レンズでのスナップ撮影に最適です。ピントは、マイクロプリズム部でギザギザが消え、像がはっきりするように合わせます。マット面がないので被写界深度は確認できません。</p>
<p>1-6 マイクロ透過式 (望遠、標準レンズ用)</p>		<p>望遠、標準レンズに適した透明なスクリーンで、暗い被写体でも非常に明るい視野が得られます。ピントは1-5と同じようにマイクロプリズム部で合わせます。マット面がないので被写界深度の確認はできません。</p>
<p>1-7 マイクロ透過式 (超望遠レンズ用)</p>		<p>主として超望遠レンズに使えるよう開発された透明なスクリーンで、1-5と同じく非常に明るい視野が得られます。レンズの開放絞りがF11でもマイクロプリズム部に黒いかげりがでないので、超望遠のような暗いレンズでもピント合わせが可能です。マット面がないので被写界深度の確認はできません。</p>



<p>1 - 8 全面マット式 (天体・超望遠用)</p>		<p>焦点距離300mm以上の超望遠レンズや天体写真撮影に最適です。マイクロプリズムやスプリットプリズムがなく、マット面も非常に細かくなっていますのですっきりした視野が得られます。全面マットですからどこでもピント合わせができます。バリマグニファイnderの併用でより正確なピントが得られます。</p>
<p>1 - 9 透過式 (内視鏡写真撮影用)</p>		<p>内視鏡写真用スクリーンです。フレネルがなく、直径23mmのコンデンサーレンズ式の透明なスクリーンなので、暗い被写体でも明るくすっきりした視野が得られます。内視鏡にカメラを取付けると常にピントが合います。被写体をみながら像のピント合わせは必要ありません。露出は内視鏡の自動露出装置で行います。</p>
<p>1 - 10 方眼マット式 (シフトレンズ用)</p>		<p>主としてシフトレンズ用に開発されたスクリーンです。1 - 4のような全面マット式に細かい方眼線を入れたもので、撮影の際の構図を決めるのに役立ちます。また一般撮影にも適し、超望遠レンズやマクロレンズとかペローズを使った接写などの撮影にも適します。</p>
<p>1 - 11 十字マット式 (接写・拡大撮影用)</p>		<p>ペローズやエクステンションチューブなどを用いた接写拡大撮影に便利なスクリーンで、中央部は透明で二重十字線、周辺部は細かいマット面になっています。倍率の低いときはマット面で、等倍以上では1 - 12タイプと同じように二重十字線を利用してピントを合わせてください。</p>
<p>1 - 12 十字透過式 (顕微鏡写真、等倍以上の拡大撮影用)</p>		<p>顕微鏡写真、およびペローズを使用した等倍以上の拡大撮影に最適です。透明なスクリーンですので、暗い被写体でも明るい視野が得られて便利です。ピントを合わせるには、まずディオプトリックコレクションレンズあるいはバリマグニファイnderを用いて、二重十字線がはっきり二本に見えるように視度を合わせます。次にピントを調節して、十字線と試料が同時に鮮明に見えるようにします。</p>
<p>1 - 13 マイクロ/スプリットマット式 (一般全レンズ用)</p>		<p>一般撮影に適し、正確なピント合わせができます。中央にスプリットプリズムその囲りがマイクロプリズムになっていますので標準タイプの1 - 1や1 - 3と同じ目的に使えます。レンズの開放絞りがF5.6以上暗くなりますと、プリズム部にかげりが出ますので、その時はマット面でピント合わせをしてください。</p>
<p>1 - 14 マイクロ/スプリットマット式 (一般全レンズ用)</p>		<p>一般撮影に適しています。中央が45°傾斜したスプリットプリズムその周辺がマイクロプリズムになっていますので、縦線や横線のある被写体の場合には、使い易くなっています。レンズの開放絞りがF5.6以上暗くなりますと、マイクロプリズムスプリットプリズムにかげりがでますので、ピントはマット面で合わせてください。</p>

## ■フィルターの選び方

カメラは絞りとシャッターで、「光の量」は制御できますが「光の質」はコントロールできません。そこで映像表現上好ましくない光の成分は、ろ過する必要になってくるわけです。これがフィルターの役割です。

オリンパスでは、10種類のフィルターを用意しています。フィルムや撮影目的に合わせて、最適の一枚をお選びください。

### ■黒白・カラー共用フィルター

**スカイライト(1A)** 紫外線を吸収すると同時に、晴天下のカラー撮影で青空光(スカイライト)の影響により日陰の部分が青っぽく描写されるのを防ぐ効果があります。レンズ保護用として使えますが、紫外線やスカイライトの影響のない被写体に対してはカラーバランスをくずすおそれがあるので、常用する場合はご注意ください。

**L39(UV)** 晴れた日の屋外では、肉眼には感じないがフィルムに感光する紫外線が多く、それが大気中のホコリなどにぶつかって拡散されるので遠景が白っぽく不鮮明に描写されることがあります。このフィルターは、有害な紫外線をカットする効果があります。レンズ保護用として常用できます。

**ND2/ND4** 中性灰色フィルターで、色彩やコントラストに影響を与えず通過する光量のみ減少させるフィルターです。バックのボケを生かすために絞りを開けたいときやシャッタースピードを遅くしてブレなどの特殊効果を狙いたいとき、また絞り機構のない反射式望遠レンズでシャッターを速くすることなく光量を減少させたい場合などに使います。露出倍数が2(1絞り分減光)と4(2絞り分減光)の2種類があります。

**C-POL(円偏光)** ガラスや水面、タイルなどの表面反射光をカットするフィルターで、ショーウィンドーの中や水中の魚などを鮮明に描写することが可能です。また青空中のチリや水蒸気、木の葉や草の表面の反射光をカットする効果もあるので、風景のカラー撮影用コントラストフィルターとしても使えます。また円偏光フィルターなのでOM-4チタンのようなハーフミラーを使用したカメラにも使えます。



### ■黒白用フィルター

**Y48(Y2)** 紫外線から紫、青の一部までを吸収する黄色のフィルターです。青い色を暗く表現するので、青空をやや落とし雲を浮き立たせるといった使い方ができます。晴れた日の遠景を撮る場合にも効果的です。またフィルムの感光性を肉眼の感光性に近づけるので、一般の近距離の撮影でもコントラストを適度に強めた自然な描写が得られます。

**O56(O2)** 紫外線から青緑色の一部までを吸収する橙色のフィルターです。Y48より幅広い範囲の吸収性をもっているため、より強いコントラスト効果が得られます。赤外線フィルムによる撮影にも使えます。

**R60(R1)** 紫外線から紫、青、緑、黄色の一部までを吸収する赤色のフィルターです。赤系統の光以外は、ほとんど吸収カットしてしまいます。きわめて強いコントラスト効果が得られ、遠景は肉眼で見る以上にくっきりと描写され、青空の調子はグンと落ちて黒っぽく表現されます。赤外線フィルムの効果を引き出すためにはなくてはならないフィルターです。

### ■カラー用フィルター

**A4(81C)** 曇天や雨天のときの光源は青白い光の成分が強く、デーライトフィルムで撮影すると青っぽい冷調な画面になりがちです。このアンバー系のフィルターを使用すれば、青味を抑えて自然な色再現が得られます。また普通光線下で意図的に温調感のある写真をつくり出すことも可能です。

**B4(82C)** 朝やけや夕やけに照らし出される被写体をデーライトフィルムで撮影すると赤味を帯びてしまいます。このブルーフィルターを使うことにより、赤味を抑えた自然な描写が得られます。また、A4とは逆に普通光線下で青味がかかったクールな印象の写真を演出することもできます。



# OM-4 Ti

---

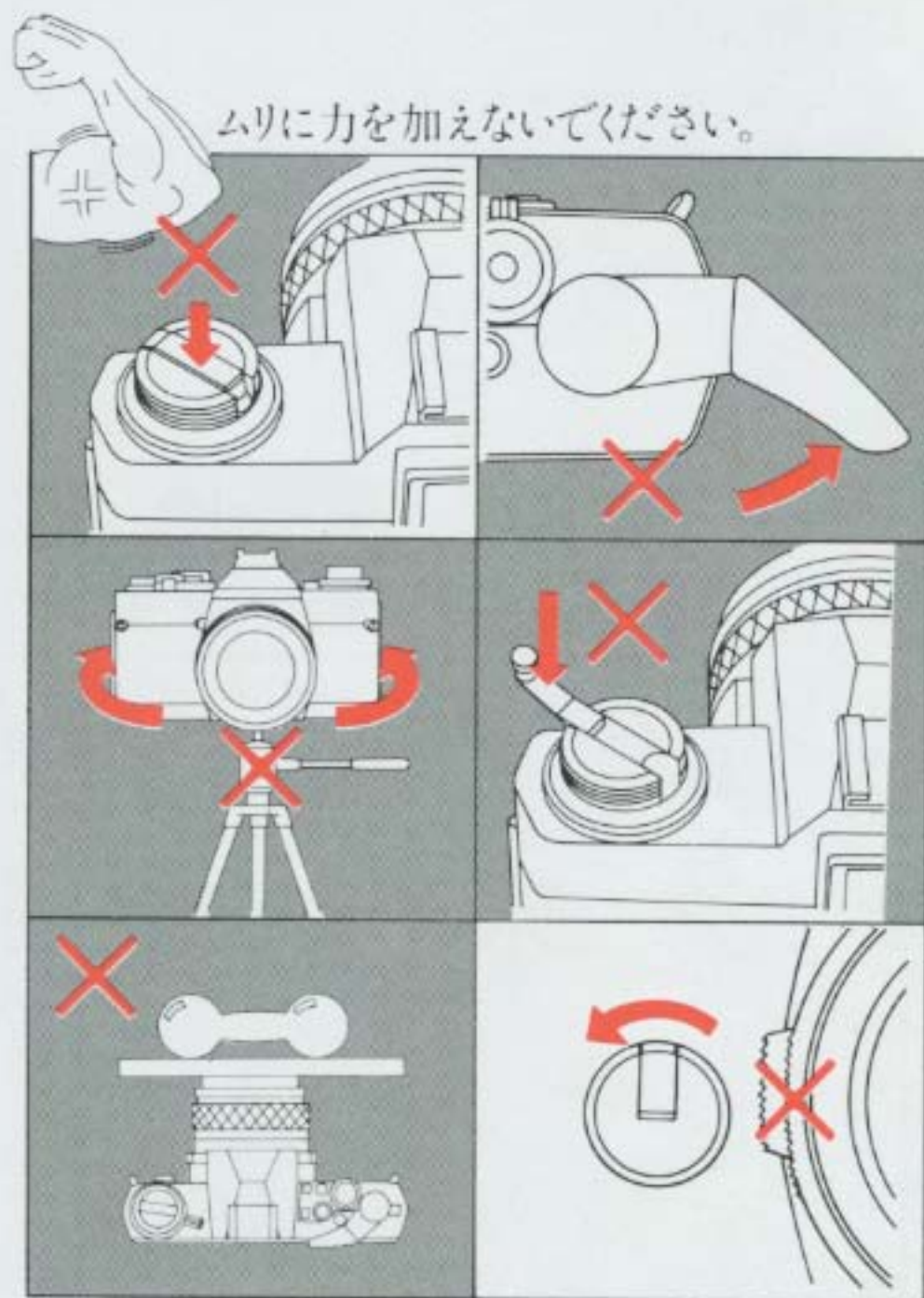
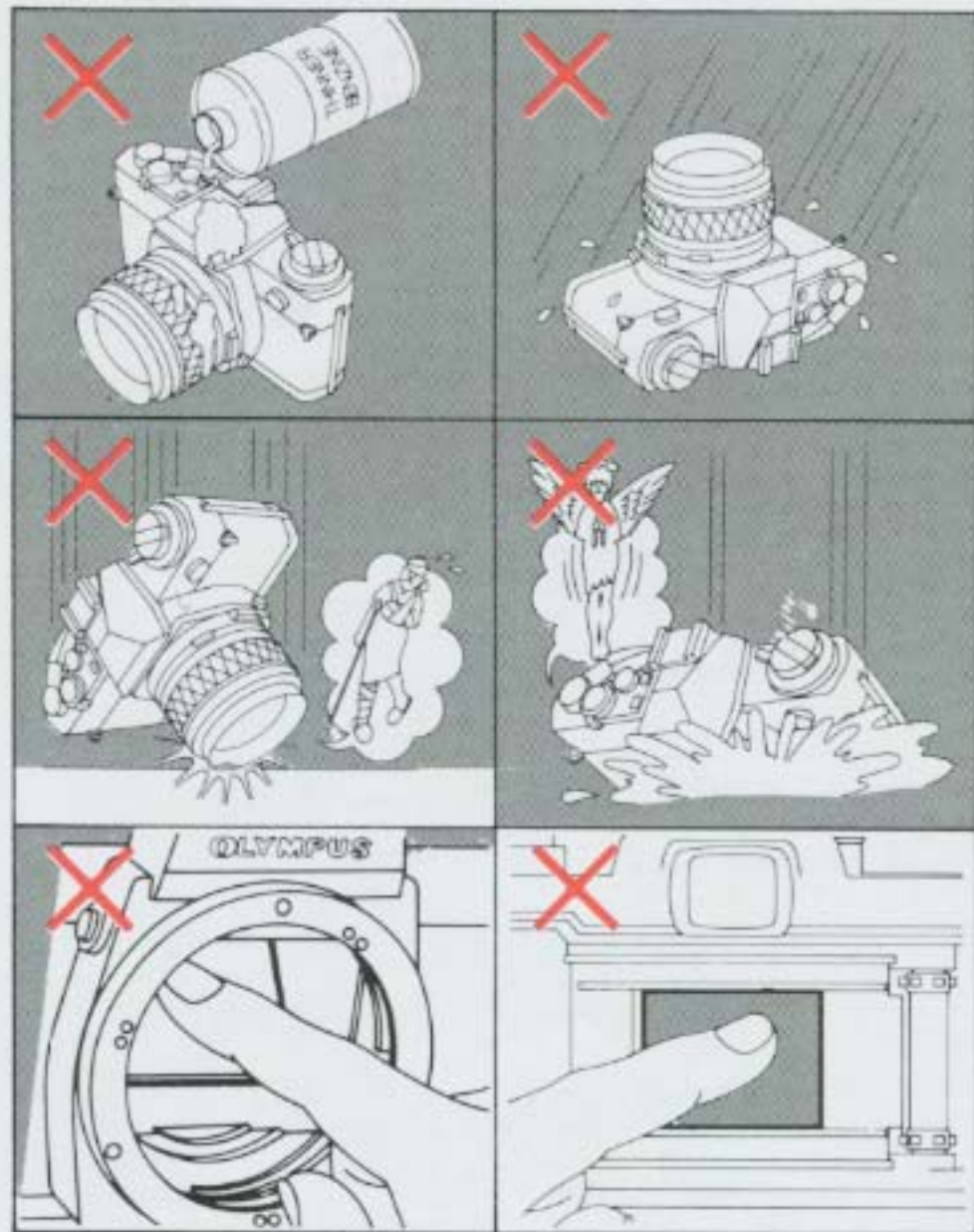
## BLACK

---

末永くご愛用いただくために

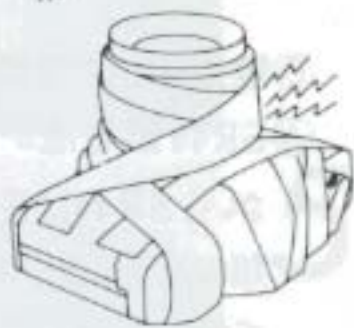
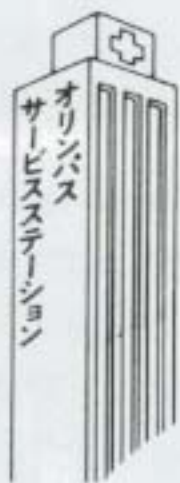
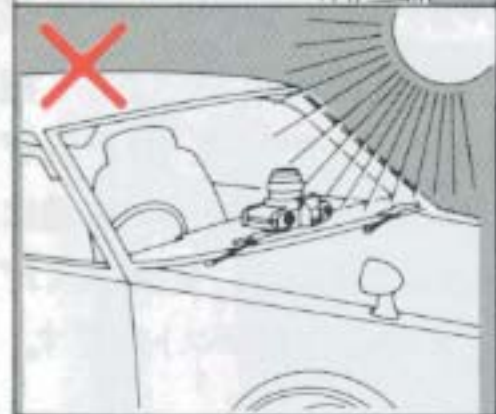
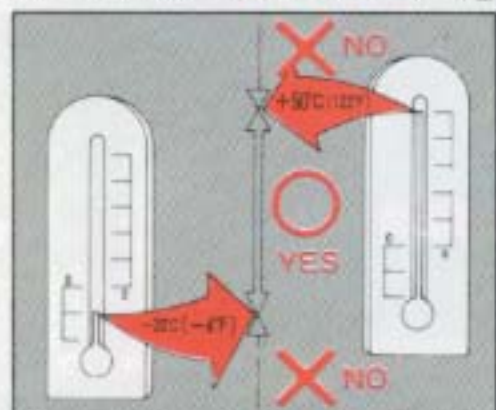
# 保管と使用上の注意

取り扱いにご注意下さい。



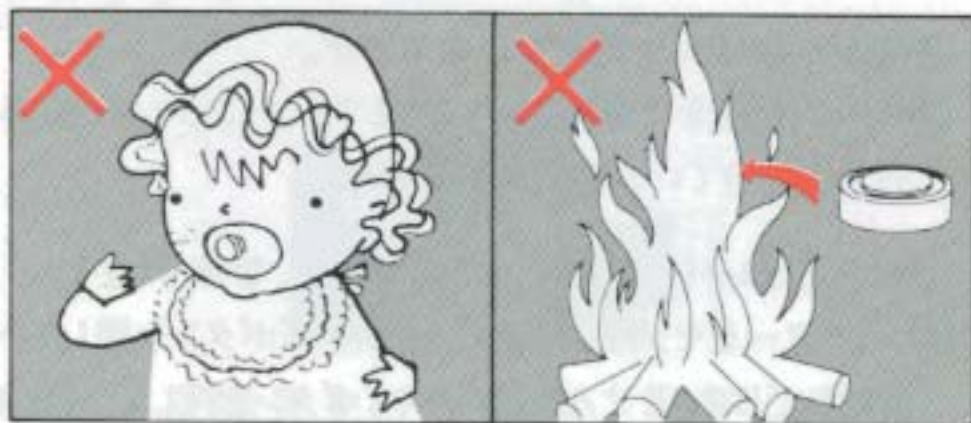
## 保管上の注意

高温や磁気などにご注意下さい。



万一、故障が生じた場合  
オリンパスサービスステーションにお持ちください。

## 電池の取扱い上の注意



幼児が電池を万一飲み込んだ場合には直ちに医師と相談して下さい。

## ■こんな時は、こうしましょう。

①レリーズボタンが押せないのですが。

①フィルムを完全に巻き上げてありますか。フィルムの撮影枚数がついているのではありませんか。

①巻き上げレバーが動かないのですが、なぜでしょう。

①シャッターをセットしたままで、レリーズボタンを押していないのではありませんか。レリーズボタンを押してシャッターを切れば巻き上げられます。フィルムはまだありますか。駒数計がフィルムの最終枚数を示していたら無理に巻き上げず、巻き戻すようにしてください。

①巻き上げレバーが動かず、ファインダー内に何も見えないのですが。

①電池は入っていますか。消耗していませんか。バッテリーチェッカーでチェックしてみてください。もし音と光が出なければ電池がありません。電池交換をするか、シャッターダイヤルをメカニカル  $\frac{1}{60}$  秒もしくは B にするとミラーがもとに戻ります。

①フィルムを入れたのに、いくらフィルムを巻き上げても巻き戻しノブが回らないのですが。

①フィルムの先が巻取りスプールにうまく差し込まれていないため、フィルムが巻き上げられていないからです。もう一度、正しく入れ直してください。

①巻き戻しクランクが回らないのですが。

①巻き戻しボタンを押しこんでください。

①ファインダー中央のスプリット周辺(マイクロプリズム)に黒いかげりがでてギラギラするのですが。

①F5以上の交換レンズを使ったり、標準レンズでもプレビューボタンを押すとギラギラします。F5.6以上に絞り込むとでるもので、マイクロプリズムには異状ありません。

①電池はどの種類を買えばよいのですか。

①SR44 銀電池か LR44 アルカリ電池 2 個を購入してください。SR44 は長寿命で経済的です。同じ大きさでも種類の違うもの(水銀電池 HR44、リチウム電池)を混ぜて使うことはできません。なお、新しい電池と古い電池は混合しないでください。電池は 2 個同時に交換してください。なお付属の電池は購入時の作動テスト用です。



①電池のチェックはどんなときにすればよいのですか。

- ①新電池を入れたとき
- ②長時間カメラを放置しておいて新たに使うとき
- ③電池がなくなっている心配があるとき
- ④気温が非常に低いとき。

②露出補正ダイヤルを一杯に回しても、所定のISO数値まで回らないときは。

- ①いったん途中の数値でセットし、再び操作することを繰り返してセットしてください。

③ISO3200で一側に補正をしてしまいました。

- ①ISO3200では一側補正はおこなえません。一側に補正したときはISOの設定値が変化します。ISO値をもう一度正しくあわせて下さい。ISO6での+補正も同じです。

④モーター蓋を外したまま、モータードライブを装着せずに撮影してもよいでしょうか。

- ①モータードライブを使わない場合は、必ずモーター蓋をつけてください。モーター穴にゴミやホコリが入って故障の原因となります。また直射光が入って露光してしまう恐れがあります。

⑤絞り値の中間で撮ってしまったのですが。

- ①大丈夫です。何の問題もありません。

⑥撮るときにはファインダーに入っていたのに、仕上がってみると周辺部の一部がカットされてしまいました。

- ①カラープリントのサービスサイズやカラーズライドでは写っている部分の周辺部がカットされ、ファインダーに入っていたものが切れてしまうことがあります。構図を決めるとき少し余裕を残しておく安全です。

⑦レンズが汚れてしまったのですが。

- ①柔らかい清潔な木綿（一度洗ったものがよい）に少量の無水アルコール（レンズクリーナーで可）を含ませて中心部から外側へ渦巻状にゆっくり拭きます。

⑧カメラの汚れはどう取ればよいのですか。

- ①カメラ（レンズ）はホコリ、湿気、塩分を嫌います。雨や霧の中を持ち歩いた後は、良く拭いて乾かしてください。また、海辺などで使ったあとは、真水を浸した布で塩分を拭きとってから手入れします。

## ■こんな時は、こうしましょう。

①フィルムにキズが付くことがあるのですが。

①A フィルムの通る部分が汚れていることが考えられます。カメラを長期間使用していると、フィルムかすによってフィルム室が汚れます。お手入れを忘れずに。

①湿気が多いところでカビを生えさせずに保管するには。

①A カメラをケースから出し、ポリエチレンの袋などに乾燥剤と一緒に保管します。ただし、乾燥剤は防虫剤の入ったものを使用しないでください。

①シャッターが開いたまま閉じません。

①A レンズキャップをしたままスポットボタンを押して、シャッターリリースすると、約4分間（F22より絞りこんだとき）シャッターは開いたままになります。このときはモード切換えレバーをバッテリーチェックに切換えてください。シャッターはただちに閉じます。モード切換えレバーを**AUTO**に戻して撮影してください。

①オートにしているとき、ファインダー内の表示より実際のシャッタースピードが遅いように感じるのですが。

①A オートでフィルムまたはフィルム面紙が入っていないときには、

表示より遅いシャッタースピードになります。

これはOM-4チタンの通常の測光方式が直接フィルム面を測るTTLダイレクト測光だからです。そのときは、不用の未現像フィルムかフィルム面紙を入れてください。

①撮影中にファインダー内の表示が消えたが。

①A OM-4チタンは節電設計になっているため、120秒たつと表示が自動的に消えます。表示を再開するときにはレリーズにかかるく指を触れてください。

①スポット入力したとき、ドットとバー表示の先端がずれるのですが。

①A バー表示がデジタル表示のため、このようなことがおこるときもあります。故障ではありませんので、露出は正しく行われます。なおハイライトコントロールあるいはシャドウコントロール時のバー表示がずれるのも同じ理由によります。

- ◎ときおり測光中のバー表示の先端が点滅するのですが。
- ①バー表示は1目盛 $\frac{1}{3}$ EVステップになっています。このため中間輝度のときは、隣り合ったブロックが交互にONして点滅するように見えるのです。また、蛍光灯下での撮影の場合、ひんぱんに点滅することがあります。これは蛍光灯が人間の眼には連続点灯して見えるのですが、実際は毎秒50~60回のスピードで点滅をくり返しているため、それに反応しておきる現象です。いずれの場合も露出は正確におこなわれるので、心配はありません。

- ◎AEロックはどのようなときに解除されますか。
- ①①シャッターレリーズしたとき②クリアーレバーを操作したとき③モードレバーを切りかえたとき④レンズを交換したとき⑤TシリーズストロボおよびF280の電源を入れたとき⑥シャッターダイヤルをバルブまたはメカニカルシャッター $\frac{1}{60}$ にセットしたとき。

- ◎ハイライトボタン (シャドーボタン) を操作したあとにスポットボタンを押してしまったのですが。
- ①ハイライトボタン(シャドーボタン)が押された後、すでに入力された最高輝度値以上 (最低輝度値以下) の値

が入力されると、その値に応じて改めて露出が決定されます。このときバー表示は再度、最高(最低)輝度値を示してから、演算結果を表示します。最高輝度値以下(最低輝度値以上)であれば影響はありません。

- ◎ハイライトボタン (シャドーボタン) を使用したのですが、意図通りの色が再現されませんでした。
- ①ネガカラーの場合、プリントの時点で自動的に色が補正されてしまうことがあります。リバーサルフィルムの場合は、こうした心配はありません。

- ◎ハイライトボタンを操作したあとシャドーボタンを押してしまったのですが。
- ①ハイライトコントロールからシャドーコントロール状態に切り換わります。逆の操作をした場合も同様です。

- ◎メモリーはどのようなときに解除されますか。
- ①①クリアーレバーを操作したとき②撮影後60分以上経過したとき③モードレバーを切替えたとき④レンズを交換したとき⑤TシリーズストロボおよびF280の電源を入れたとき⑥シャッターダイヤルをバルブまたはメカニカルシャッター $\frac{1}{60}$ にセットしたとき。

## ■こんな時は、こうしましょう。

①マニュアル撮影で、シャッタースピードの中間で撮影したのですが。

①シャッタースピードは中間では使えません。中間で切った場合は、どちらかのスピードになります。定位置で撮影してください。

①寒い場所で撮影していたら、電池が消耗してしまいました。写す方法はないでしょうか。

①メカニカルシャッター $\frac{1}{60}$ 秒を使用してください。

①ストロボが発光しないのですが。

①次の2つの理由が考えられます。①オートモードのとき。 $\frac{1}{60}$ 秒より高速では自動的に発光が制御されます。(F280のスーパーFP発光のときを除く)②ボディの電池がなくなっていないですか。この場合にはメカニカルシャッター $\frac{1}{60}$ 秒、Bでも発光しません。

①ストロボ撮影でスポット測光はできますか。

①スポット測光はできません。

①Tシリーズ、F280以外のストロボを使用したいのですが、どのようにすればよいでしょうか。

①OM-4チタンのモードレバーをマニュアルにしてください。これで、クリップオンあるいはPCシンクロコードで接続すれば使用することができます。ただし、次の点に注意してください。ファインダー内のストロボチャージ完了、適正発光確認ランプは表示されません。なお、逆極性のストロボはどんなときにも発光しません。このほか、ご使用になるときは、お手持ちのストロボの使用説明書をよくお読みになってください。

<その他の注意>

- ・レコーデータバック1、2は使用できません。
- ・250フィルムバック1はそのままでは使用できません。OM-4チタン用に改造できます。ご希望の方はサービスステーションにご相談ください。
- ・カメラ側のモーターフタは、モータードライブ1、ワインダー1、2には収納できません。
- ・偏光フィルターを使うときは円偏光フィルターを使用してください。



# 保証書、アフターサービスについて

## 保証書の発行について

1. 保証書はお買上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。  
なお、お客様へお送りする保証書の内容は右記(見本)のようになっておりますので、よくお読みください。

## アフターサービスについて

1. 本製品のご不明の点、万一故障の場合はお買上げの販売店、または裏表紙の当社サービスステーションに依頼してください。
2. 使用説明書等に仕上がったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理致します。
3. 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。また運賃諸掛りはお客様においてご負担願います。
4. 当カメラ及びOMシステム交換レンズの補修用性能部品は、製造打切り後10年間を目安に当社では保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間後であっても修理可能な場合がありますので、お買上げの販売店または、お近くの当社サービスステーションにお問い合わせください。

本保証書は、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。お買上げの日から、満一ヶ年間、万一故障が発生した場合は、本保証書を添付ご持参の上お買上げの販売店、または当社サービスステーションにご依頼下さい。

### 〔保証規定〕

1. この保証書は、使用説明書、取扱上の注意事項等に仕上がったお取扱いにより本製品が万一故障した場合は、お買上げ日から満一年間無料修理をいたしますので、お買上げの販売店または使用説明書記載の当社サービスステーションに、本商品に本書を添付ご持参の上修理をご依頼下さい。
2. 販売店、または当社サービスステーションにご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。また販売店と当社間の運賃諸掛につきましては、輸送方法によって(間接便以外を使用した場合)一部ご負担いただく場合があります。
3. 保証期間内でも次のような場合には、有料修理になります。  
(イ)使用上の誤り(使用説明書、取扱上の注意事項等以外の誤操作など)により生じた故障。(ロ)当社サービスステーション、および当社が認定する修理店以外で行われた修理・改造・分解掃除等による故障。(ハ)お買上げ後の輸送・落下・衝撃等による故障および損傷。(ニ)火災・地震・水害・落雷その他の天災地災、公害や異常電圧による故障及損傷。(ホ)保管上の不備(高温、多湿の場所、ナフタリン等の防虫剤や有害薬品のある場所での保管等)や手入れの不備等による故障。(ヘ)電池等の消耗に起因する故障。(ト)砂、泥冠り等が原因で発生した故障。(チ)本保証書の添付のない場合。(リ)お買上げ年月日、お客様名、販売店名、商品No等の記載事項を訂正された場合。
4. 保証の対象となる部分は本体のみで、ケース・ストラップ・キャップ等の付属品類、消耗品類(電池類)は保証の対象となりません。
5. 本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等)については補償いたしかねます。

ご注意 1. 本保証書は、以上の保証規定により無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。  
2. 本保証書の表示について、ご不明の点は使用説明書に記載されている当社サービスステーションにお問い合わせ下さい。

### 〔保証書取扱上の注意〕

1. 本保証書をお受け取りの際は、販売店名およびお買上げ年月日等が記入されているかどうかをご確認下さい。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買上げの販売店へお申し出下さい。
2. 本保証書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管して下さい。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。  
(THIS WARRANTY CARD IS VALID ONLY IN JAPAN)
4. 海外旅行にお出掛けの際は国際保証書の発行をお申し込み下さい。保証書はサービスステーションに用意してあります。

### 〔アフターサービスについて〕

1. 修理完了品には、当社より修理伝票が発行されますので、修理品をお受取りの際ご確認ください。
2. 保証期間経過後の修理等についてのお問合せは、使用説明書(交換レンズはカメラ本体の使用説明書)に記載されているお近くの当社サービスステーションをご利用下さい。
3. 部品の保有期間等アフターサービスに関する事項につきましては、使用説明書に詳しく記載されておりますのでご覧ください。

## ■オリンパスカメラクラブのご案内

オリンパスカメラクラブとは、オリンパスカメラのご愛用者によって組織され、会員相互の親睦をはかり、あわせて写真の知識や技術の向上をはかることを目的とし、発足以来、北は北海道から南は沖縄まで全国に多数の会員がいる写真サークルです。

### ●オリンパスカメラクラブに入会すると

1. カメラクラブ主催の撮影会、写真旅行など各種催物に参加できます。
2. 毎月の月例コンテストに応募することができます。
3. カメラクラブ発行の月刊誌「オリンパスフォトグラフィ」に作品を寄稿し、発表することができます。
4. 作品通信指導を受けることができます。
5. カメラクラブの特別販売品を購入することができます。
6. オリンパスが実施する催物に優先的に参加することができます。
7. カメラクラブの支部活動に参加することができます。

8. ご愛用カメラの修理料金が特別割引になります（全国のオリンパスステーションにカメラをお持ちいただいた場合に有効です）。

● **オリンパスカメラクラブに入会するには**  
オリンパスカメラおよびズイコーレンズご愛用者はどなたでも入会できます。入会申し込みは、カメラクラブ専用「ズイコーニュース編集室宛」の郵便払込通知票をご利用いただくか、または現金書留で会費をお払い込みください。申し込みは常時受け付けています。

入会金(申込金、新入会時のみ) 800円  
会 費(購読料)1年分(12冊)4,200円  
計 5,000円

平成元年4月現在

上記の会費をお払込みください。入会された方には、会員証などをお送りいたします。

### ●カメラクラブの所在地

〒160 東京都新宿区新宿5-17-9  
新宿野村證券ビル9F  
電話 03(207)5511  
オリンパスカメラクラブ事務局

## ■各部の名称

ファインダー情報採光窓

クリアー・メモリーレバー  
(P. 24, 26, 32, 34)

セルフタイマー・  
電子音消音レバー  
(P. 46, 51)

グリップ止めネジ  
(P. 54)

セルフタイマー・バッテリーチェックナル  
(P. 10, 46)

TTLオートシンクロソケット

吊り金具



標準レンズ



レンズ着脱ボタン (P. 8)

被写界深度目盛

絞り環 (P. 16, 18)

距離環 (P. 17)

レンズマウント環



アクセサリシュー

マニュアル用シャッターダイヤル (P. 33, 39)

巻き戻しクランク (P. 20)

裏蓋開放・巻き戻しノブ  
(P. 11, 20)

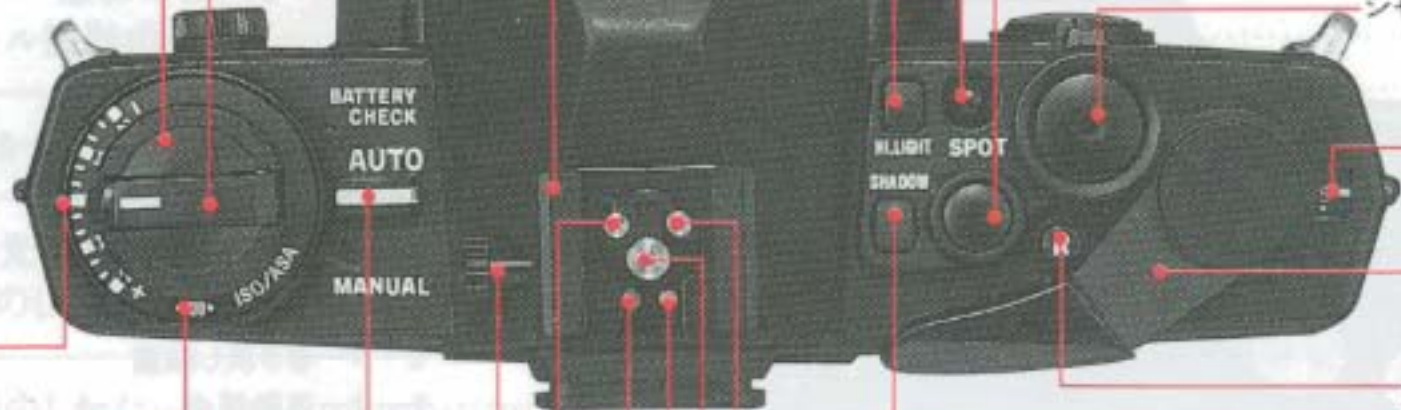
ハイライトボタン (P. 27, 28)

ファインダー内情報照明ボタン (P. 50)

メモリーシグナル (P. 33)

スポットボタン (P. 22, 25, 26, 38)

シャッターリリースボタン



フィルム駒数計  
(P. 13, 19)

フィルム巻き上げ  
レバー  
(P. 12)

巻き戻しボタン (P. 19)

シャドーボタン (P. 29, 30)

ファインダー表示接点

ストロボ端子 (X専用)

スーパーFP接点

フィルム感度設定

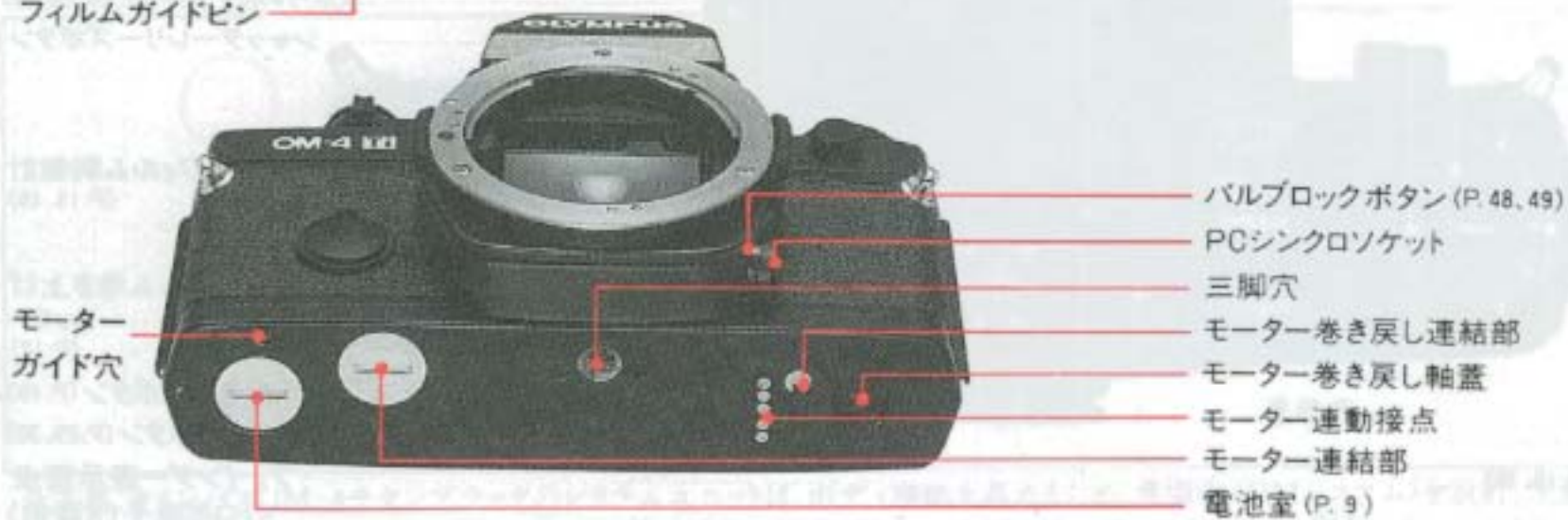
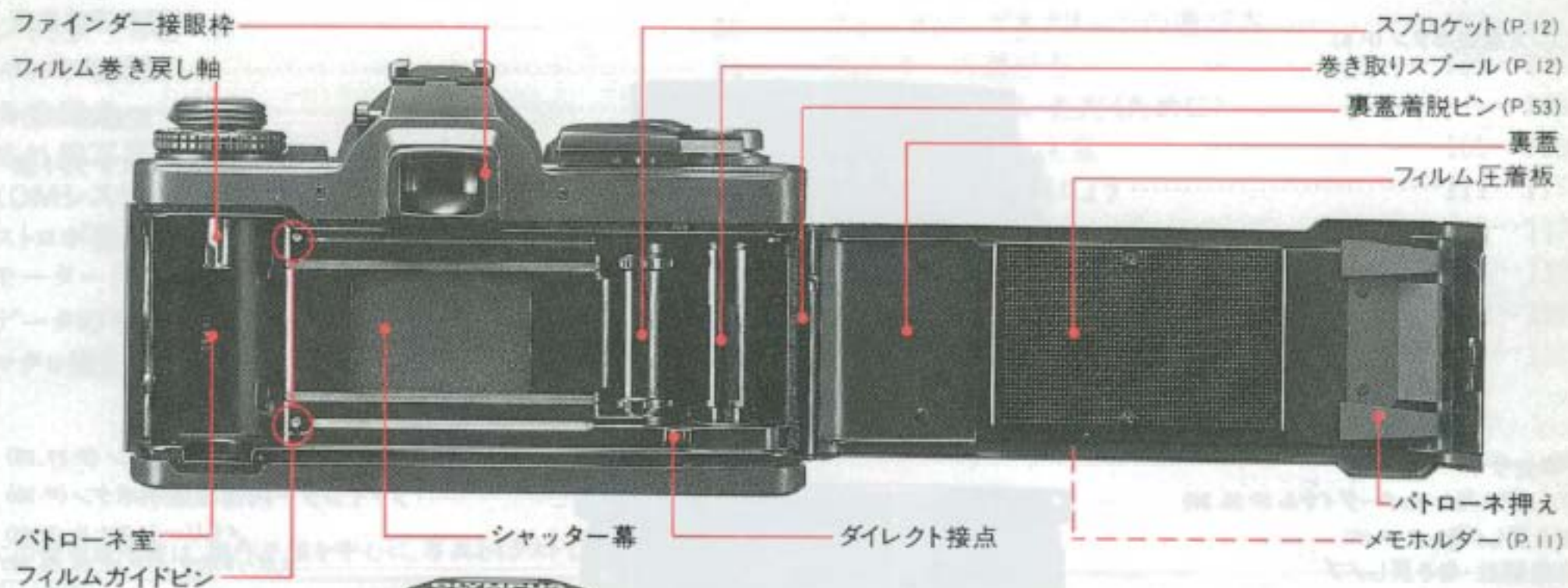
露出補正ダイヤル  
(P. 14, 47)

フィルム感度窓 (P. 14)

モード切り換えレバー (P. 10, 16, 36)

視度調節ノブ (P. 5)

フラッシュコントロール接点



## ■オリンパスOM-4チタンブラックのおもな仕様

形式	TTL自動露出式35mm一眼レフカメラ
画面サイズ	24×36mm
レンズ交換	オリンパスOMマウント
シャッター	電磁制御式横走り布幕フォーカルプレーンシャッター 最高速シャッタースピード/1/2000秒 メカニカルシャッタースピード/1/60秒、バルブ
測光方式	形式/中央重点平均測光、スポット測光切り換え式 スポット測光はマルチスポット方式、ハイライト基準方式、シャドー基準方式演算可能
平均測光自動露出制御	形式/TTLダイレクト測光絞り優先電子シャッター 測光範囲/約-5EV~19EV 露出制御/約1分~1/2000秒(ISO100、50mm F1.4常 温常湿時) 露出補正/±2EV
スポット測光自動露出制御	形式/TTL記憶式(AEロック) 測光範囲/0EV~19EV 露出制御/約4分~1/2000秒(ISO100、50mm F1.4常 温常湿時) 露出補正/±2EV
自動露出記憶制御 (メモリー制御)	形式/露出値記憶方式、記憶リミッター 60分
マニュアル露出制御	B・1秒~1/2000秒 (Xシンクロ1/60秒以下の低速において同調)
ストロボ露出制御	○スーパーFP発光(フルシンクロフラッシュ使用時)/ スーパーFP接点(シャッタースピードの全速で同調) TTLオート制御:1/60~1/2000秒で同調 マニュアル:B・1~1/2000秒で同調 ○閃光発光(Tシリーズ・フルシンクロフラッシュ使用 時)/X接点 TTLオート制御:1/60秒以下の低速時に同調 マニュアル:1/60秒以下の低速時に同調

ストロボの電気接続	ホットシュー(X接点・スーパーFP接点の端子付) Tシリーズ専用5ピンコネクター シンクロソケット(JIS型)
フィルム感度	ISO6~3200
フィルム巻き上げ	レバー式、巻き上げ角130°、予備角30° 小刻み巻き上げ可能 モータードライブ、ワインダー使用可能
フィルム巻き戻し	クランク式(「モータードライブ2」によるモーター巻き戻し可能)
ファインダー	視度調節式ファインダー 視度調節範囲 +1.0~-3.0ディオプトリー スクリーン交換式、標準タイプはマイクロスプリット型 視野率/タテ、ヨコ97% 倍率/視度-0.5ディオプトリーの時50mmレンズ付きに おいて0.84倍
ファインダー表示	LCDによる多モード表示、表示リミッター2分 照明内蔵 10秒間のリミッター付
セルフタイマー	電子セルフタイマー 12秒
バッテリーチェック	LEDおよび音による3レベル表示 電池消耗時作動ロック
電源	JIS SR44型銀電池又はJIS LR44型アルカリ電池2個 使用
裏蓋	交換式(メモホルダー付) レコーダータバック、250フィルムバック取付可能
大きさ	136×84×50mm(ボディのみ)
重量	510g(ボディのみ)



# OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-91 東京都新宿区西新宿1の22の2 新宿サンエービル

## ■海外にお出かけの方に

万一旅行の途中で、カメラに故障が発生した場合は、各国にサービス・ステーションがありますのでお尋ねください。

※詳細は、商品に同梱されておりますインターナショナルサービスネットワークリストをご参照ください。

## 国内オリンパス・サービスステーション所在地

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休みます。オリンパスプラザは日曜・祝日および年末年始が休みです。

東京	オリンパスプラザ内 〒101 東京都千代田区神田小川町1丁目3番1号 小川町三井ビル	☎03(3292)1931
札幌	060 札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル8F	☎011(231)2320
仙台	980 仙台市青葉区一番町1の3の1 日本生命仙台ビル9F	☎022(225)6821
新潟	950 新潟市東大通り2の4の10 日本生命新潟ビル4F	☎025(245)7337
横浜	221 横浜市神奈川区栄町1の1 アーバンスクエア横浜11F	☎045(451)1531
松本	390 松本市深志1の2の11 松本昭和ビル4F	☎0263(36)5331
名古屋	460 名古屋市中区錦2の19の25 日本生命広小路ビル4F	☎052(201)9571
金沢	920 金沢市香林坊1の2の24 千代田生命金沢ビル4F	☎0762(62)8257
大阪	542 大阪市中央区南船場2の12の26 オリンパス大阪センター2F	☎06(252)6991
高松	760 高松市中央町11の11 高松大林ビル	☎0878(34)6166
広島	730 広島市中区八丁堀16の11 日本生命広島第2ビル5F	☎082(228)3821
福岡	810 福岡市中央区天神1の14の1 日本生命福岡ビル4F	☎092(761)4466
南九州	892 鹿児島市加治屋町12の7 日本生命加治屋町ビル6F	☎099(225)1105
沖縄	900 那覇市久茂地3の1の1 日本生命那覇ビル4F	☎098(864)5396